

調査概要

1. 調査テーマ

幼稚園保育所における園庭及び屋上やベランダ、地域などの屋外環境の状況や活用の実態

2. 調査方法

郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）

3. 調査地域

日本国内全域（種別及び設置運営者別に行政都市区分ごとの無作為抽出による選出）

4. 調査項目

園敷地内にある園庭以外の屋外環境/屋外環境での保育目標や内容・ルール・課題/
園敷地外(地域)の場所の利用状況/園敷地外の場所を利用するねらいや目標/
園敷地外への移動手段・時間・頻度/園庭や地域利用に関する保育者間・保護者との情報共有など

5. 調査時期・対象

調査時期：2018年3月

調査対象：幼稚園及び認可保育所（調査時認定こども園への移行があった園を含む）の国公私立園理事長・園長・保育者・事務長など園関係者

発送数：総数 3,005 園（内訳：幼稚園 1,500 園 保育所 1,505 園）

回収数（回収率）：総数 1,070 園（35.6%）（内訳：幼稚園 526 園，保育所 458 園，認定こども園 83 園）

6. 本調査の特徴

- ・全国の幼稚園・保育所について、設置運営者及び行政区別に偏りなく抽出した園をサンプルとしているため、国内の実態をとらえることができる。
- ・園敷地外の地域環境や屋上やテラスといった場所について、園の保育目標や内容との関係においてとらえることができる。
- ・園敷地内外の屋外環境の利用に際して、その実現を支える情報共有についてツールと内容をとらえることができる。

7. 本調査報告の構成

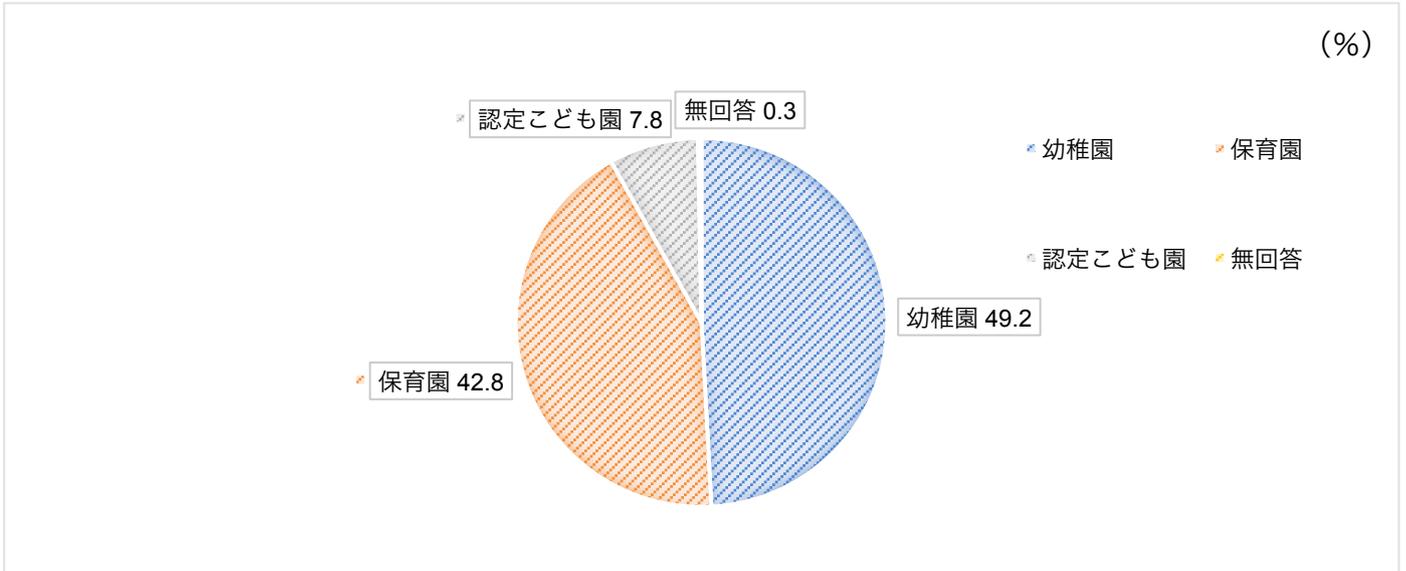
- I. 基本属性
- II. 園児数・園の環境・保育形態
- III. 園敷地内での園庭以外の屋外設備
- IV. 園敷地外の環境・ねらいや目標
- V. 屋外環境に関する園内での情報共有・保護者との共有

※本報告書を読む際の注意点

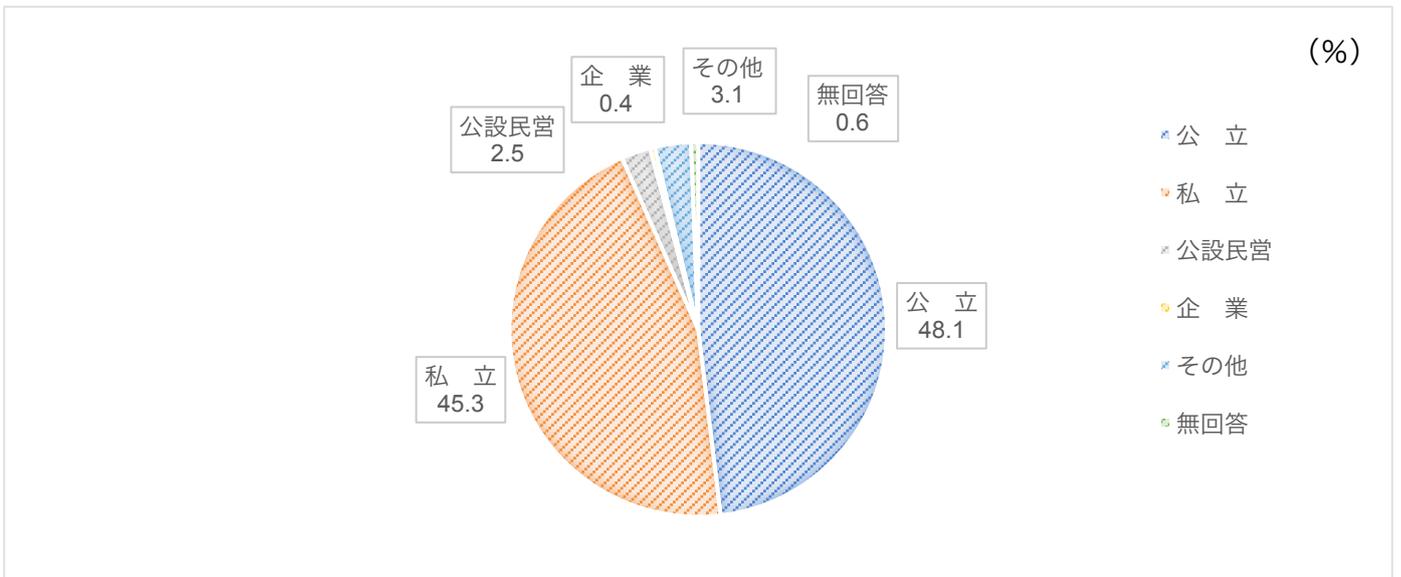
- ・本報告書において、「未満児」は0-2歳児クラスを、「以上児」は幼稚園満3歳児クラス及び3-5歳児クラスのことを指します。
- ・本報告書で使用している百分率（%）は、原則として小数点第2位を四捨五入して表示しています。

I. 基本属性

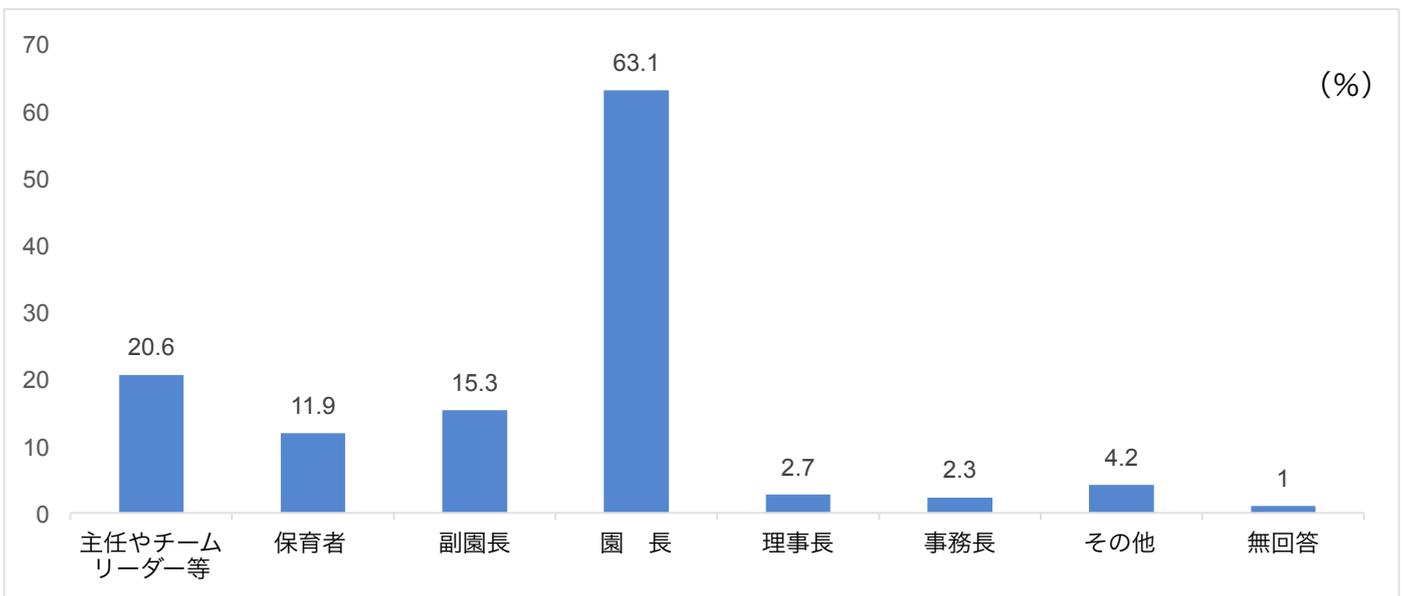
1-1. 種別



1-2. 設置運営者

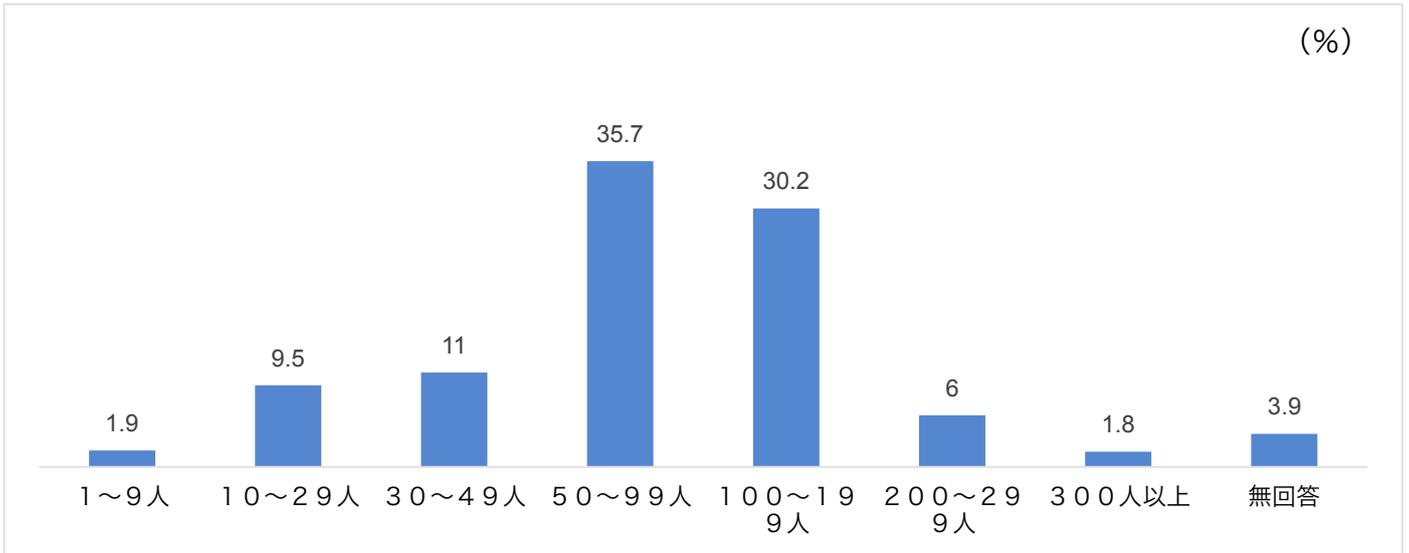


1-3. 回答者の役職

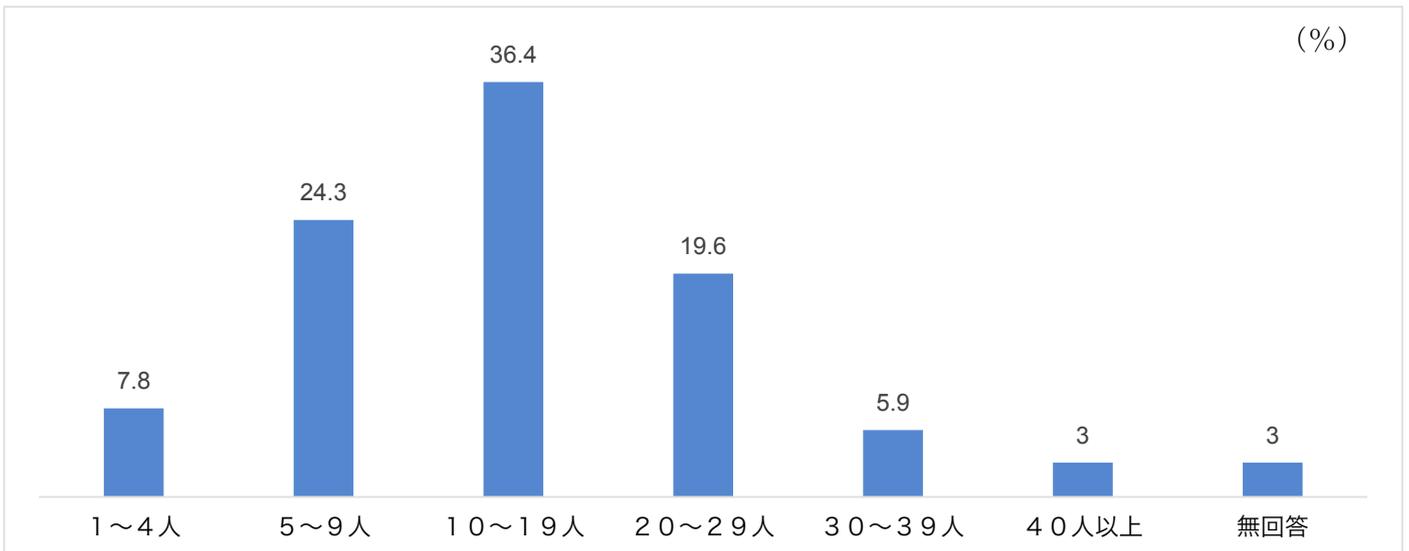


II. 園児数・園の環境・保育形態

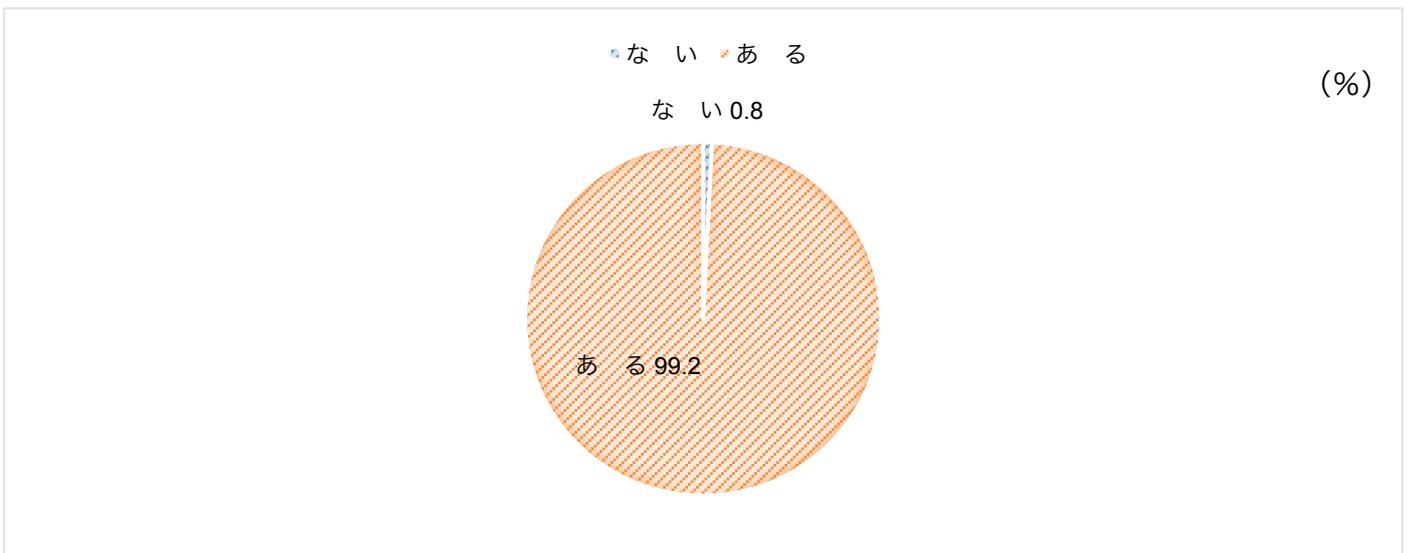
2-1. 園児総数



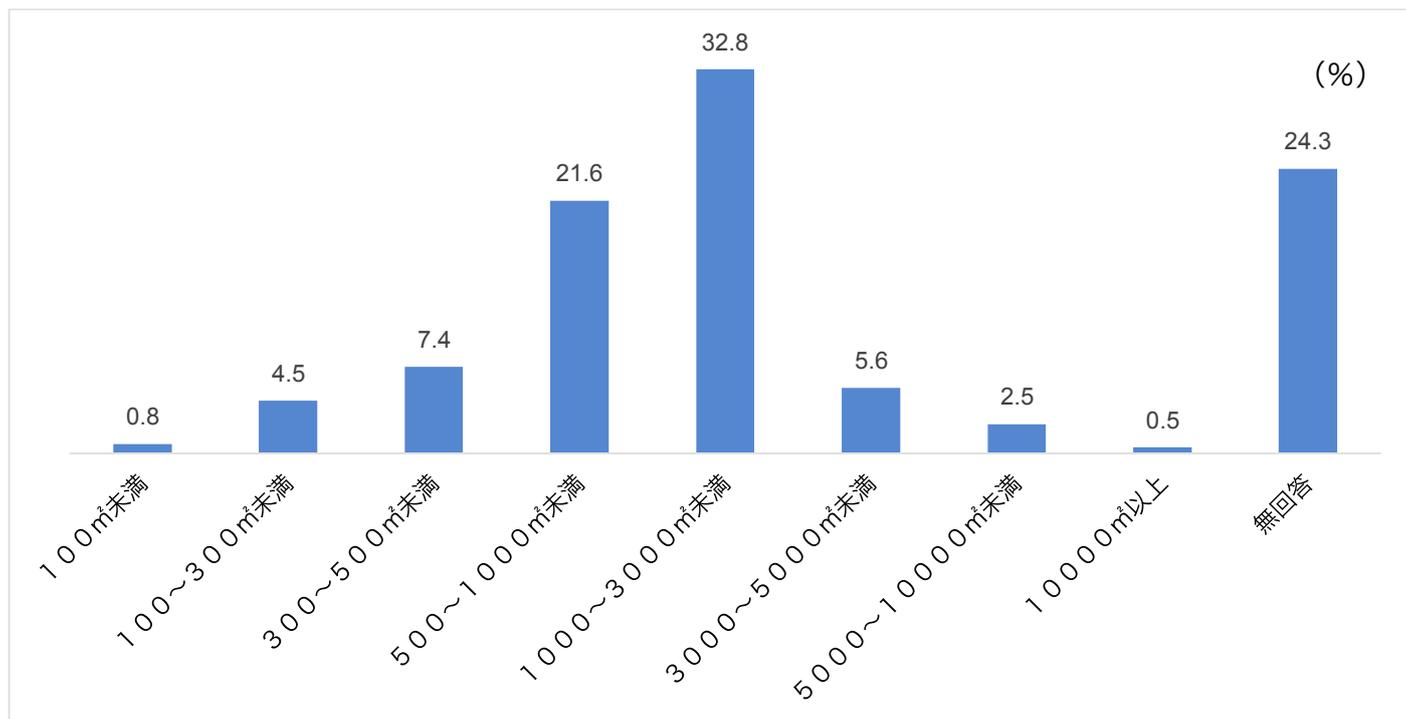
2-2. 保育者数



2-3. 園庭の有無

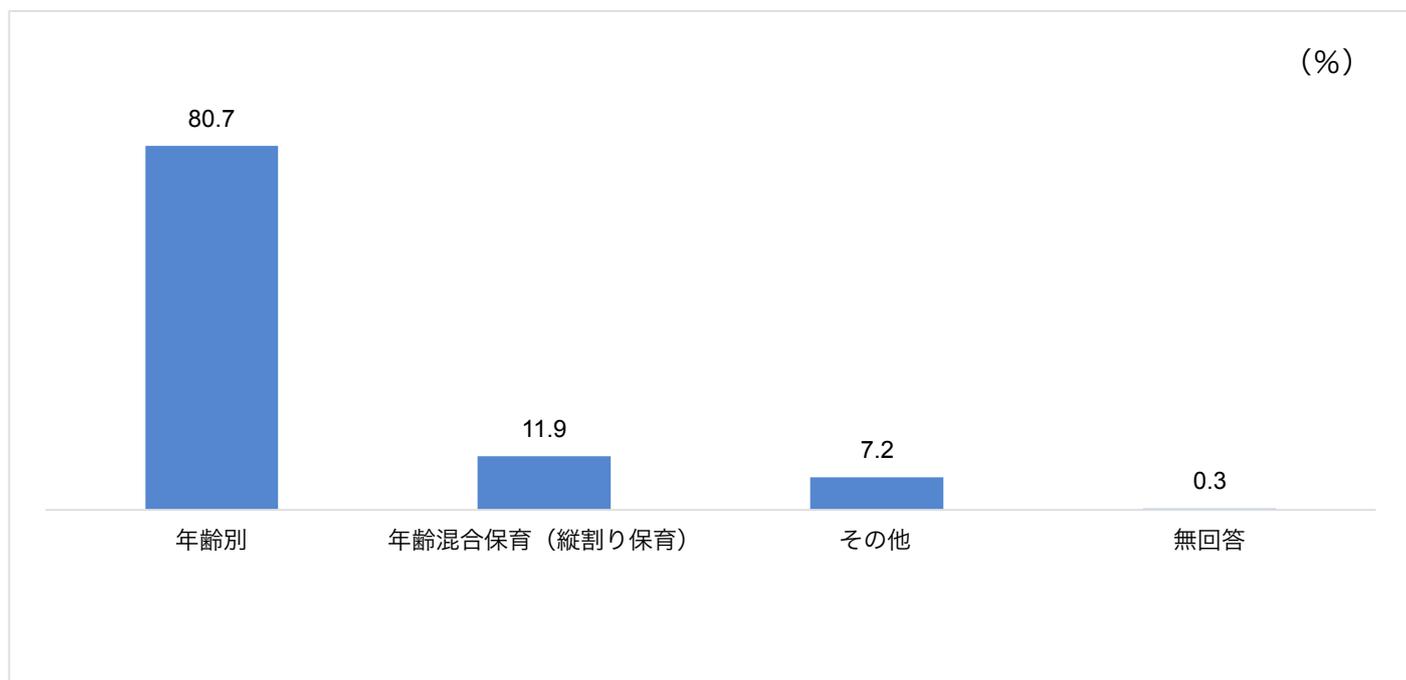


2-4. 園庭の総面積



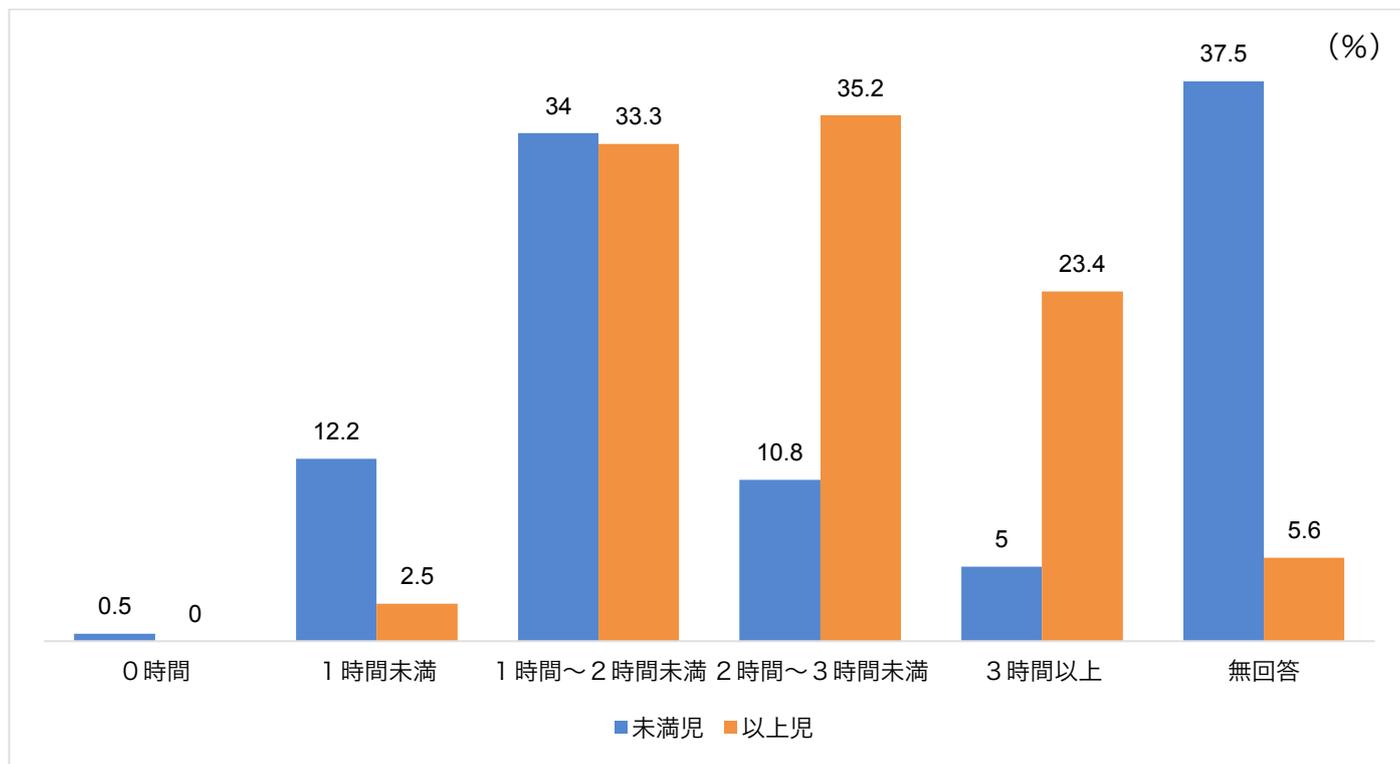
・園庭面積は「1000~3000㎡未満」の園が最も多く、次に「500~1000㎡未満」となっている。「100㎡未満」及び「10000㎡以上」と回答した園は少ない。

2-5. 保育形態



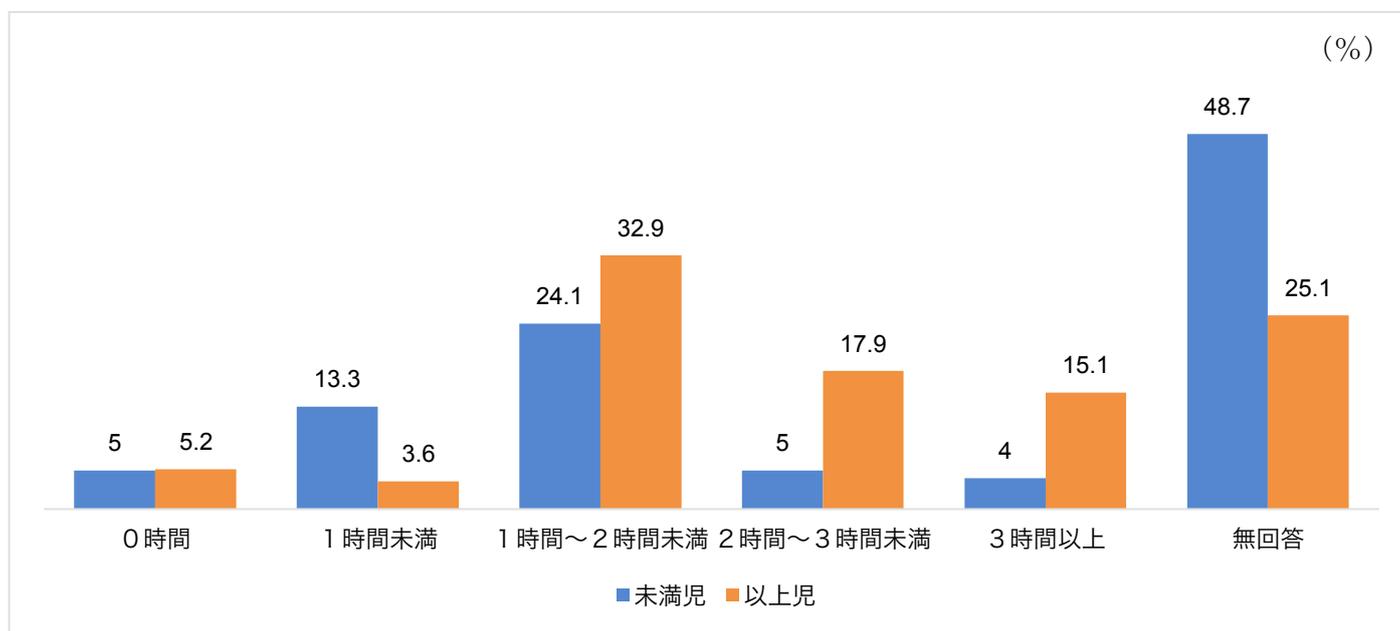
・8割の園が年齢別の保育を実施している。

2-6. 一日の園庭利用時間数



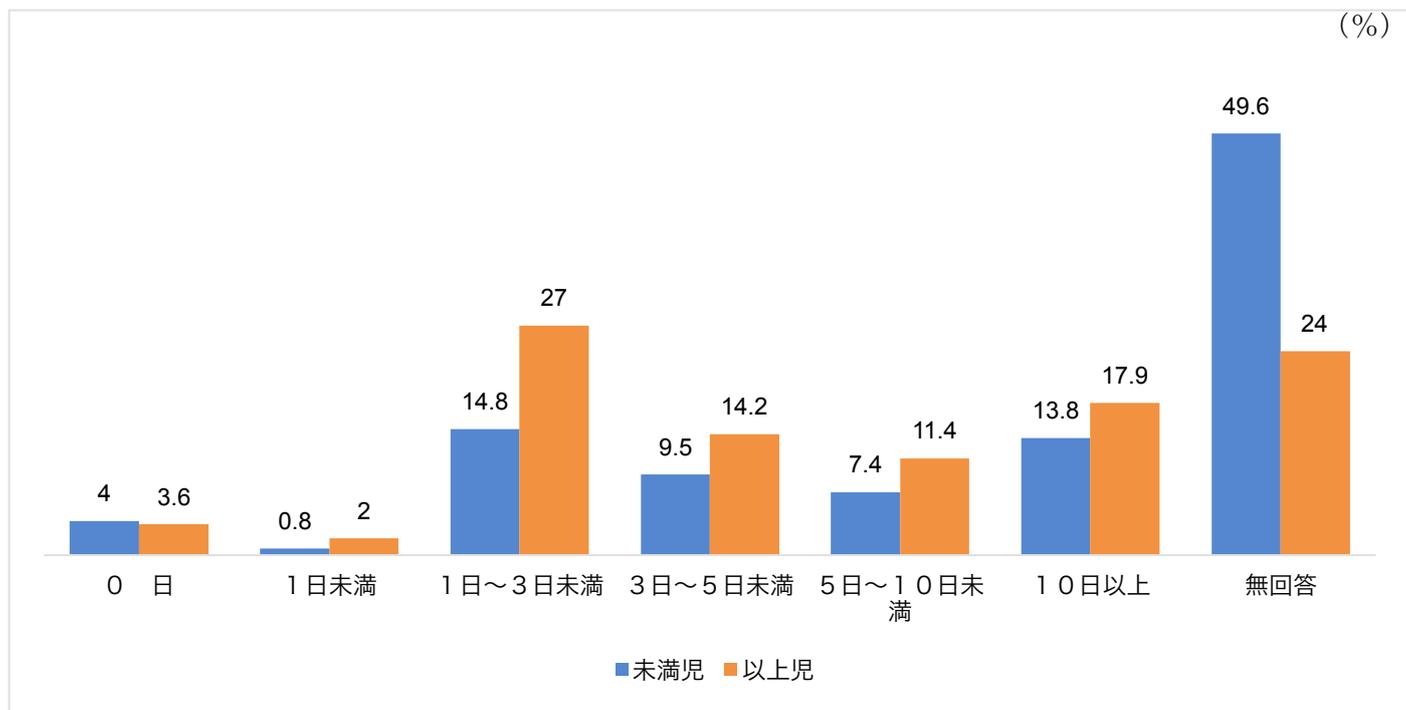
・以上児は「2時間～3時間未満」が最も多い。また未満児、以上児共に「1時間～2時間未満」は多い。

2-7. 園敷地外での活動時間数(日)



・未満児は、園敷地外においても「1時間～2時間未満」が最も多い。以上児に関しては園庭で最も多かった「2時間～3時間未満」であったが、それと異なり、未満児同様「1時間～2時間未満」が最も多い結果になっている。

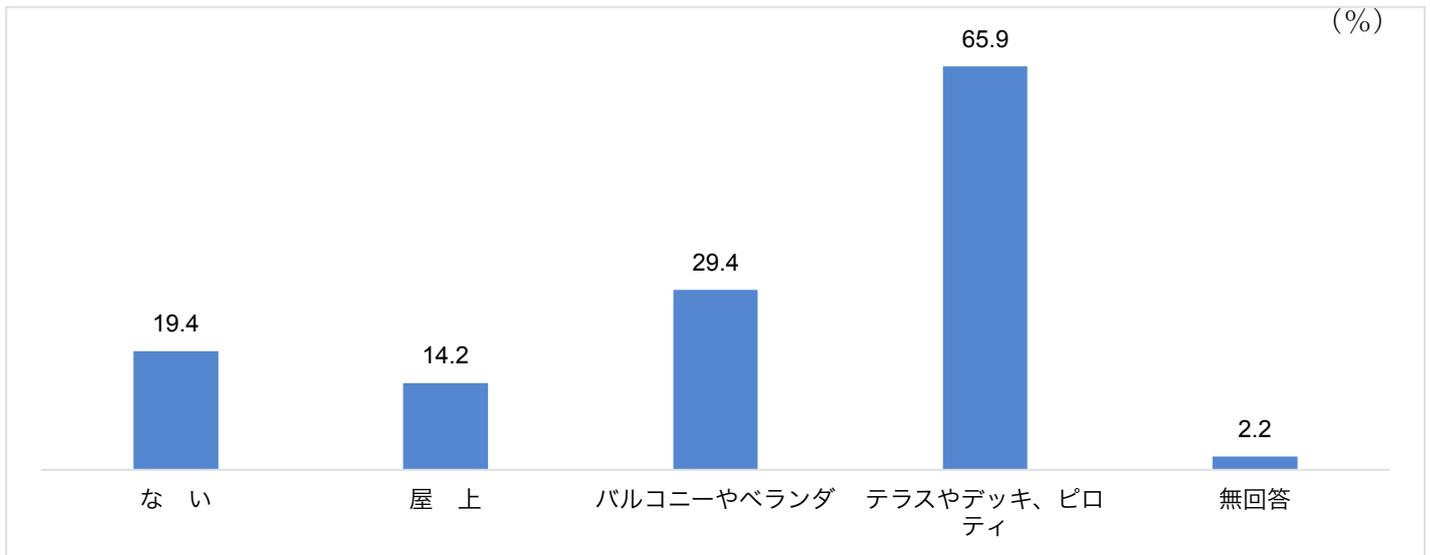
2-8. 園敷地外での活動日数(月)



・園敷地外での月平均活動日数は未満児以上児共に「1日～3日未満」が最も多いが、次に多いのは「10日以上」となっている。

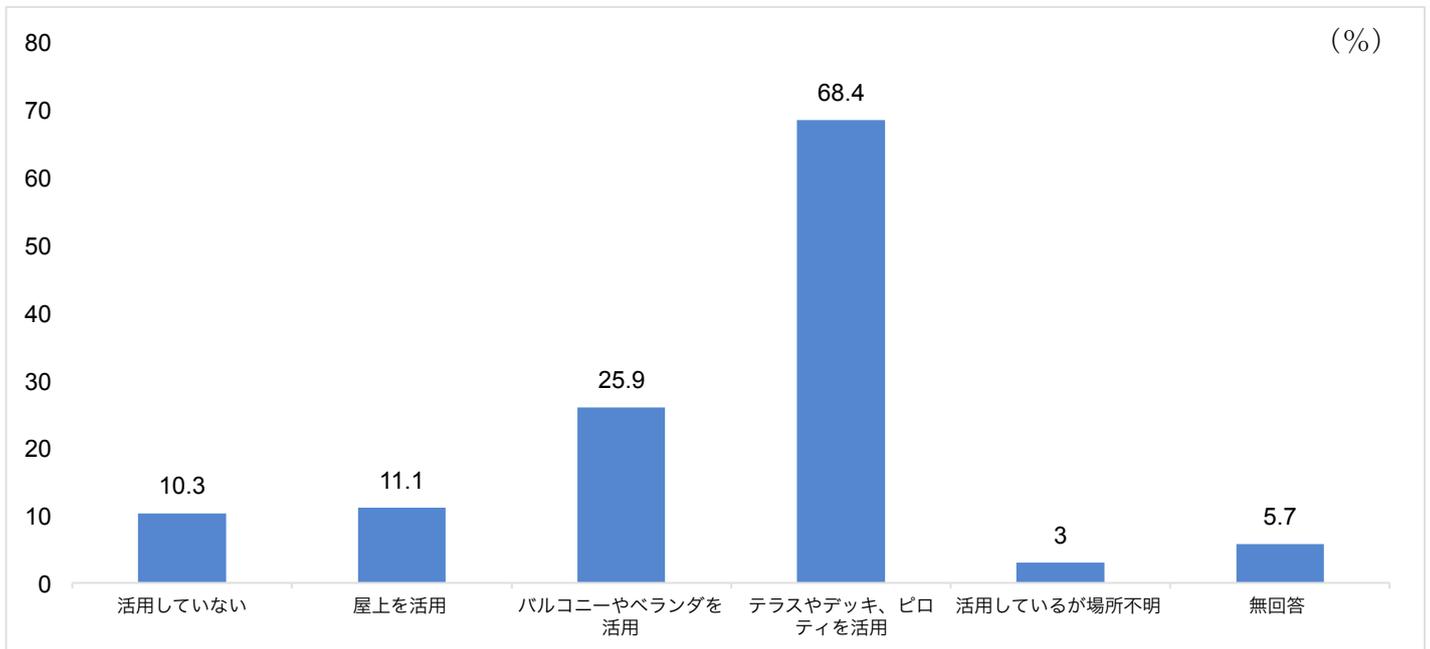
Ⅲ. 園敷地内での園庭以外の屋外設備

3-1. 屋外設備の有無（複数回答項目）



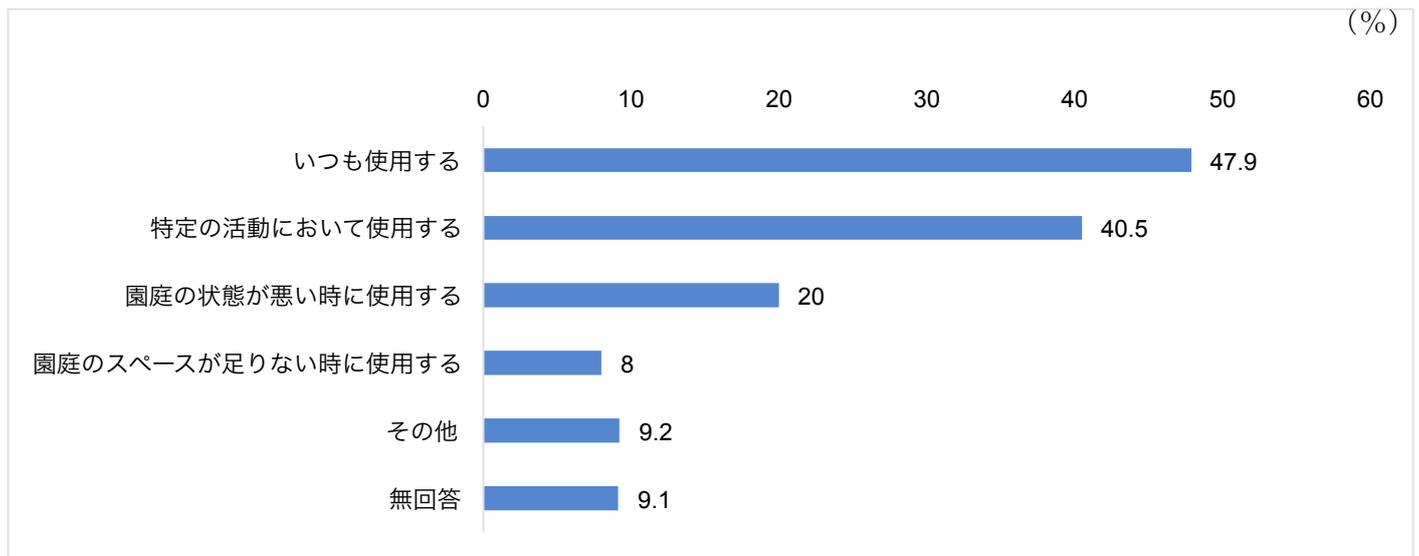
・園庭以外の屋外環境については、「テラスやデッキ、ピロティ」の保有率が最も高く、次いで「バルコニーやベランダ」となっている。「ない」という割合も2割近い。

3-2. 屋外活動の場所 (n=838：複数回答項目)



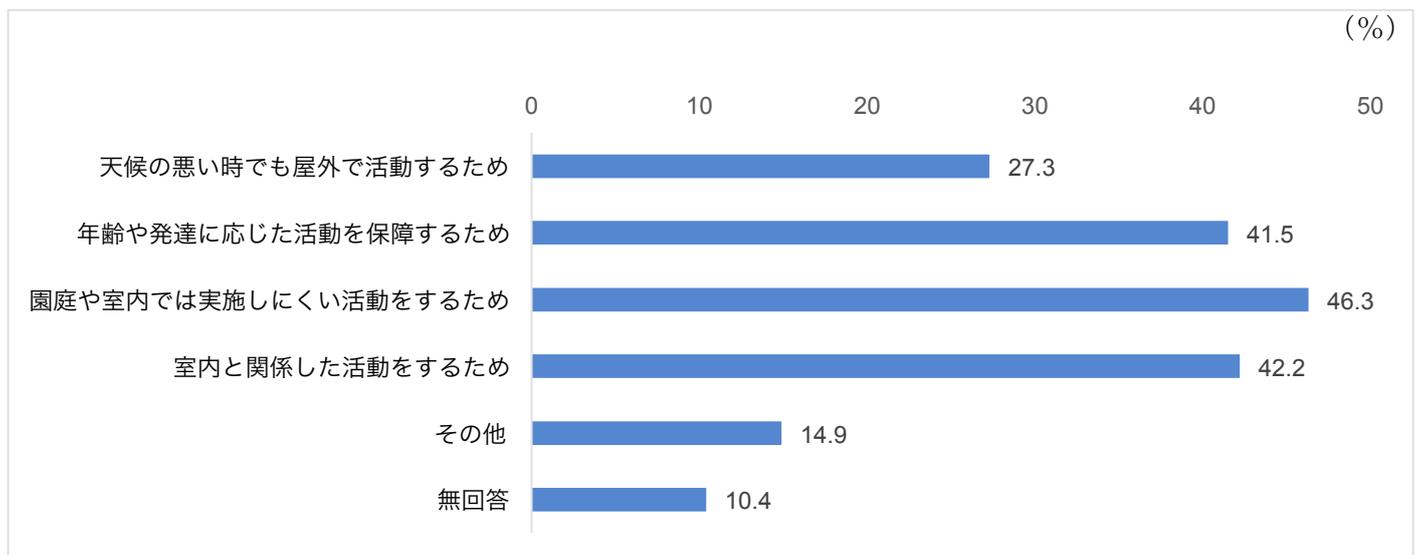
・園庭以外の屋外環境の活用は「テラスやデッキ、ピロティを活用」を選択した園の割合が最も高く、次いで「バルコニーやベランダ」が高い。

3-3. 3-2. の活動場所を活用する時(n=704：複数回答項目)



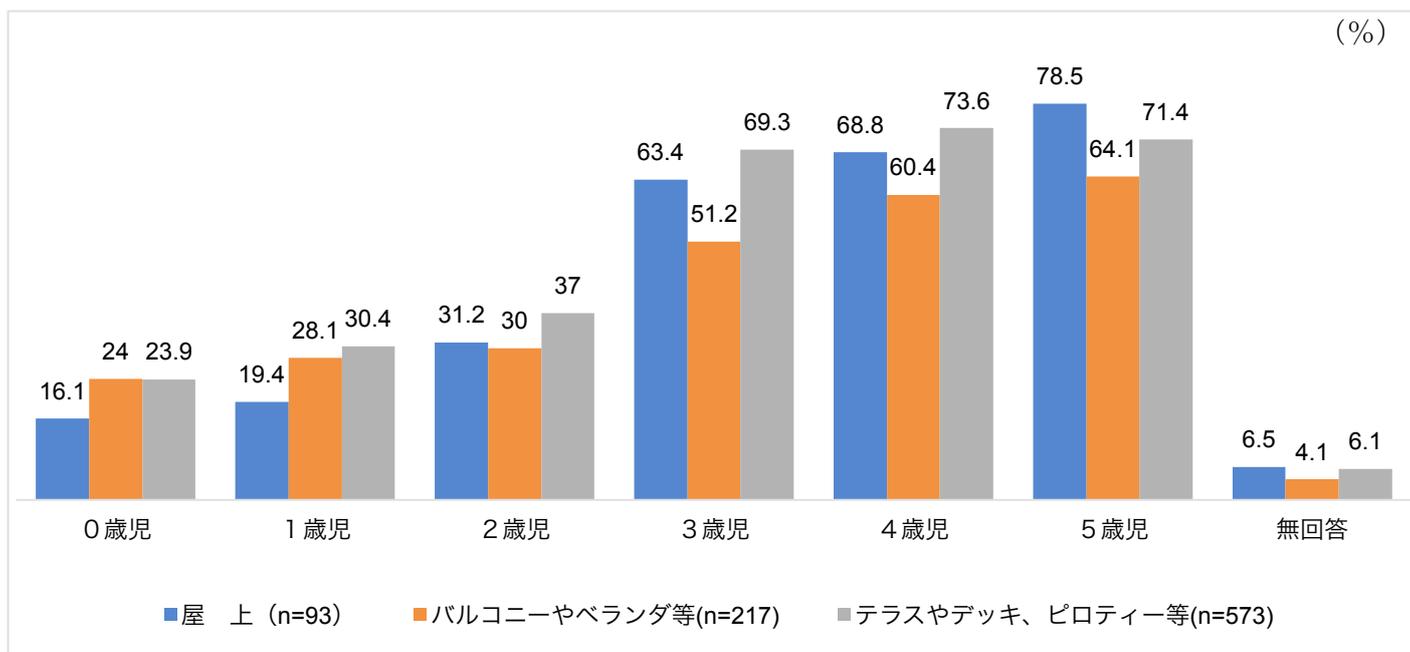
・園庭以外の屋外環境の活用状況について「いつも使用する」が最も高く、次いで「特定の活動において使用する」となっている。園庭の代替地としての活用についても約3割の回答がある。

3-4. 3-2. の活動場所を活用する目的(n=704：複数回答項目)



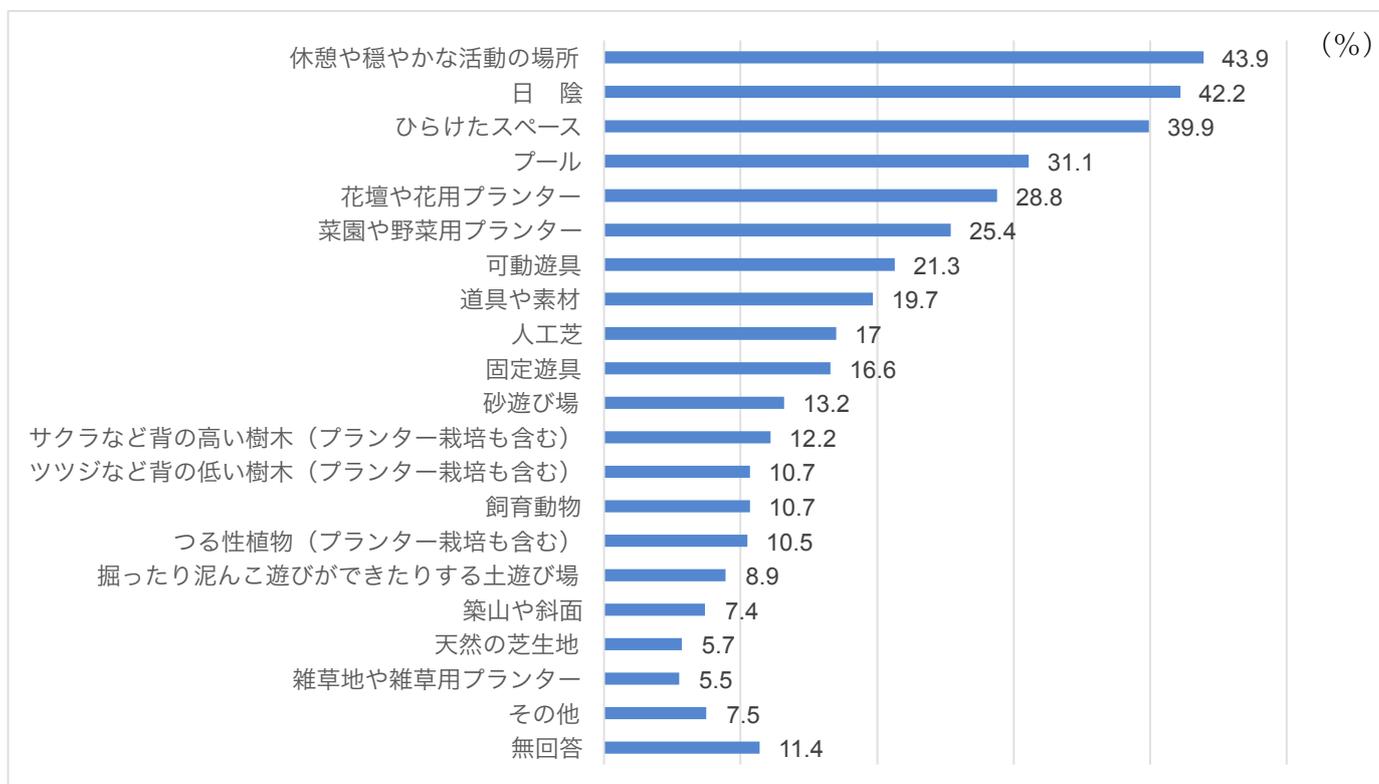
・活用目的として、「園庭や室内では実施しにくい活動をするため」が最も高い。場の固有性を活かした活動が展開されている可能性が示唆される。

3-5. 活動場所を主に使用する園児(複数回答項目)



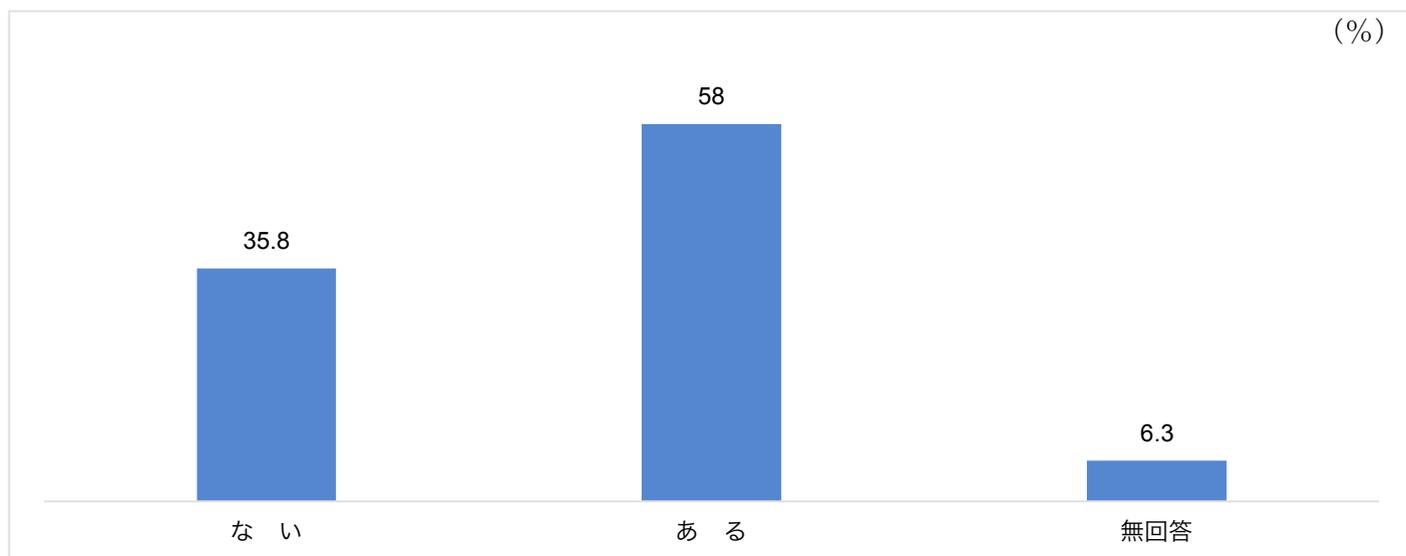
・全体的に以上児の使用率が高い。また年齢別では、2歳児以上で最上階に位置する「屋上」の使用率が「バルコニーやベランダ等」の使用率を上回っており、5歳児では3か所の中で最も高い使用率となっている。

3-6. 活動場所(屋上、バルコニーやベランダ、テラスやデッキ、ピロティー等)の物理的環境(n=704:複数回答項目)



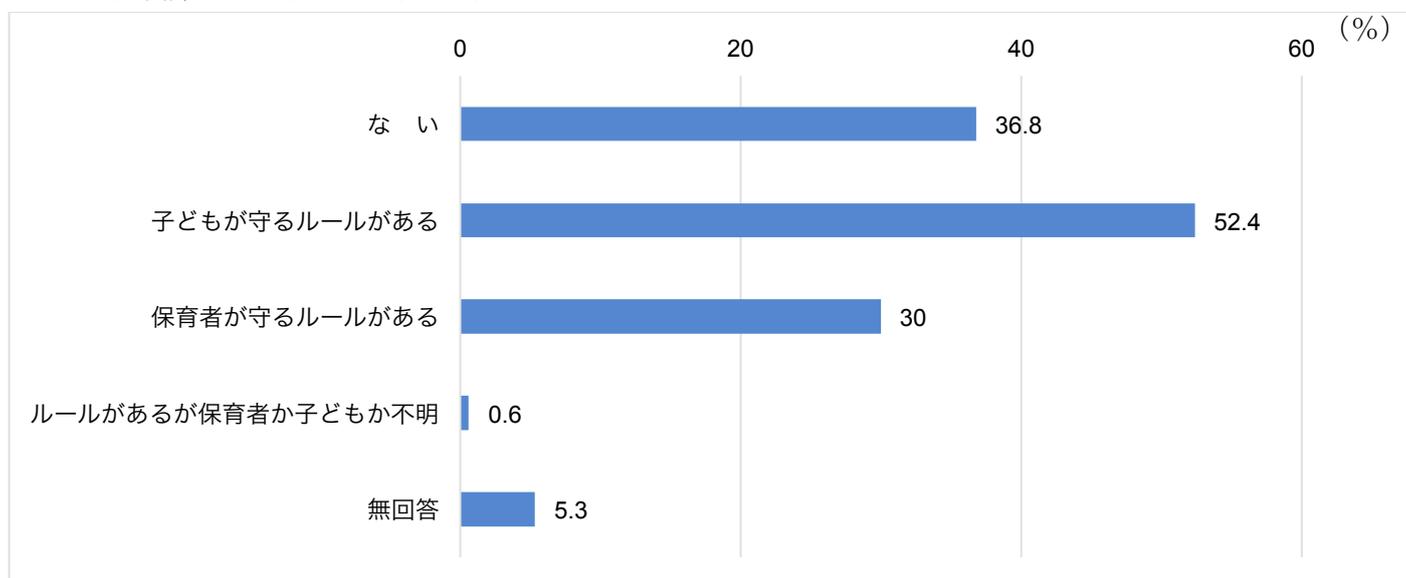
・園庭以外の屋外環境にある物理的環境について、当てはまるもの全てを選択する質問では「休憩や穏やかな活動の場所」の設置が最も高く、次いで「日陰」になっている。「雑草地や雑草用プランター」や「天然の芝生」は低い。

3-7. 活動場所の特性を活かした活動や使い方の有無 (n=704)



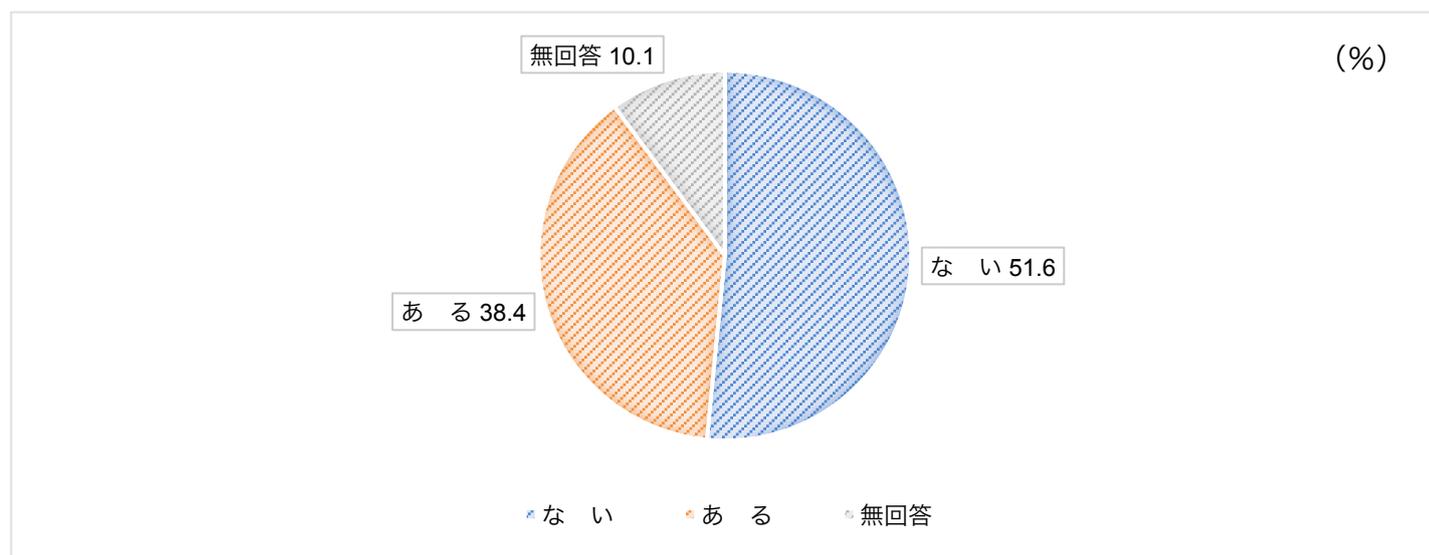
・活動場所の特性を活かした活動や使い方があると回答した園の方が多く、半数を上回っている。

3-8. 活動場所におけるルール (n=704)



・園庭以外の屋外環境において「子どもが守るルールがある」と回答した割合が最も高い。次いでルールはないという結果になっている。

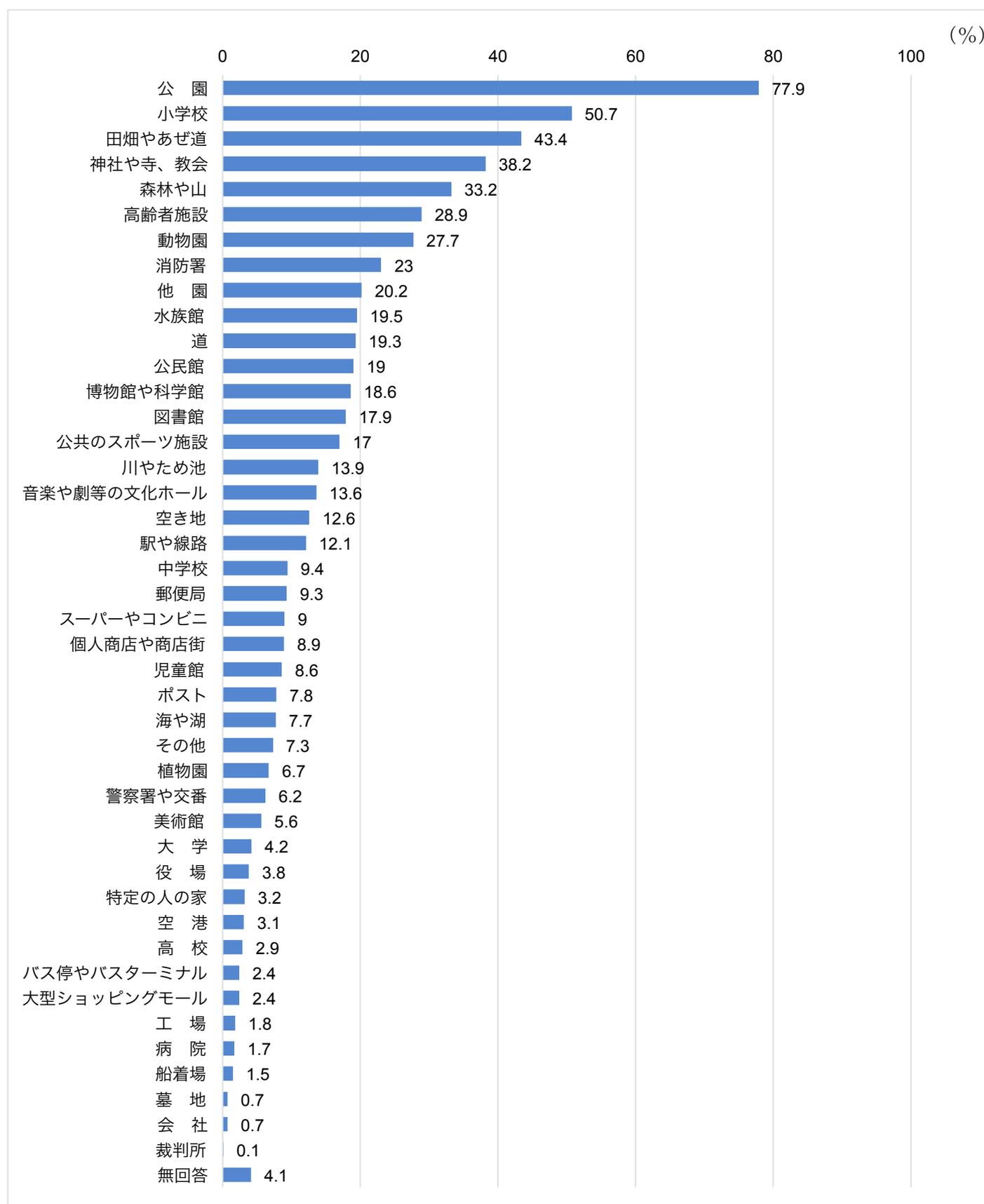
3-9. 活動場所の課題 (n=704)



- ・ 園庭以外の屋外環境について、約半数が「課題がない」と回答している。

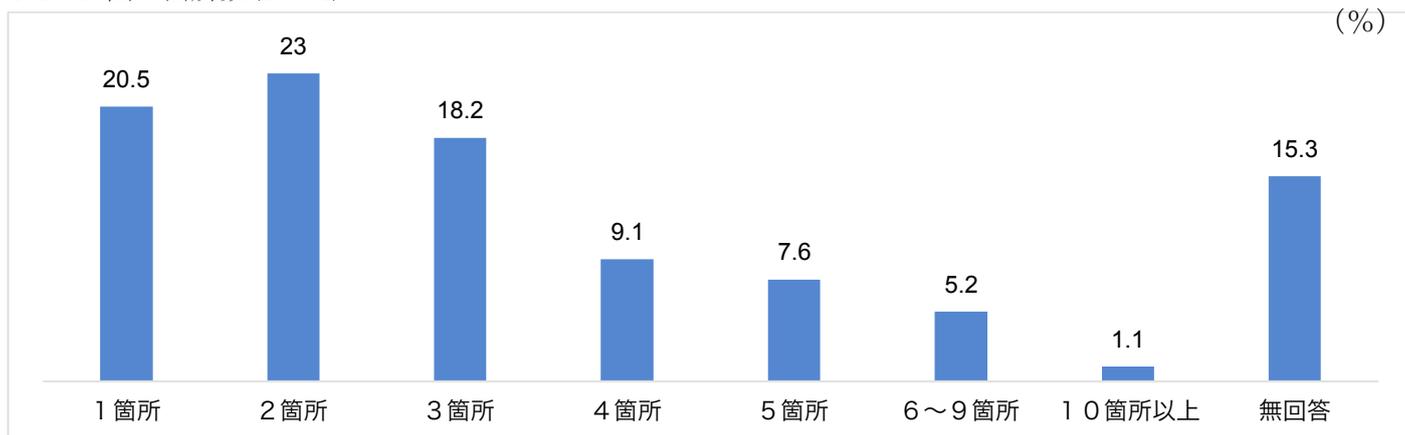
IV. 園敷地外の環境・ねらいや目的

4-1. 園敷地外の場所利用(複数回答項目)



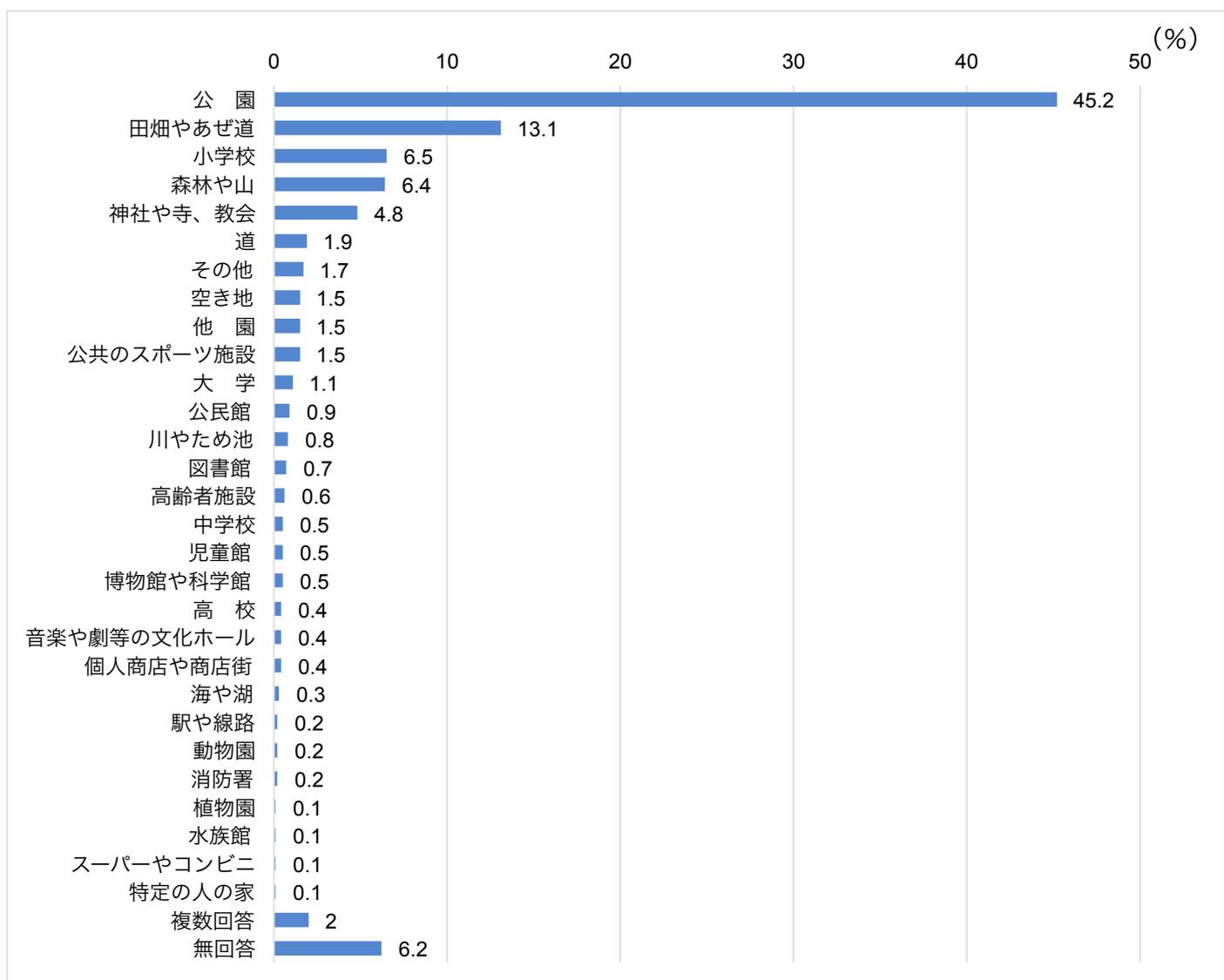
・園敷地外の場所の利用については、「公園」が最も高い。次いで「小学校」「田畑やあぜ道」「神社や寺、教会」「森林や山」「高齢者施設」となっている。学校は「小学校」「中学校」の順に利用が有り、次に「大学」、最後に「高校」となっている。「工場」「病院」「船着場」「墓地」「会社」「裁判所」といった場も少数ではあるが利用がある。また、公園を利用するとした回答者の利用公園数は以下 4-2 の通りである。

4-2. 公園の箇所数(n=834)



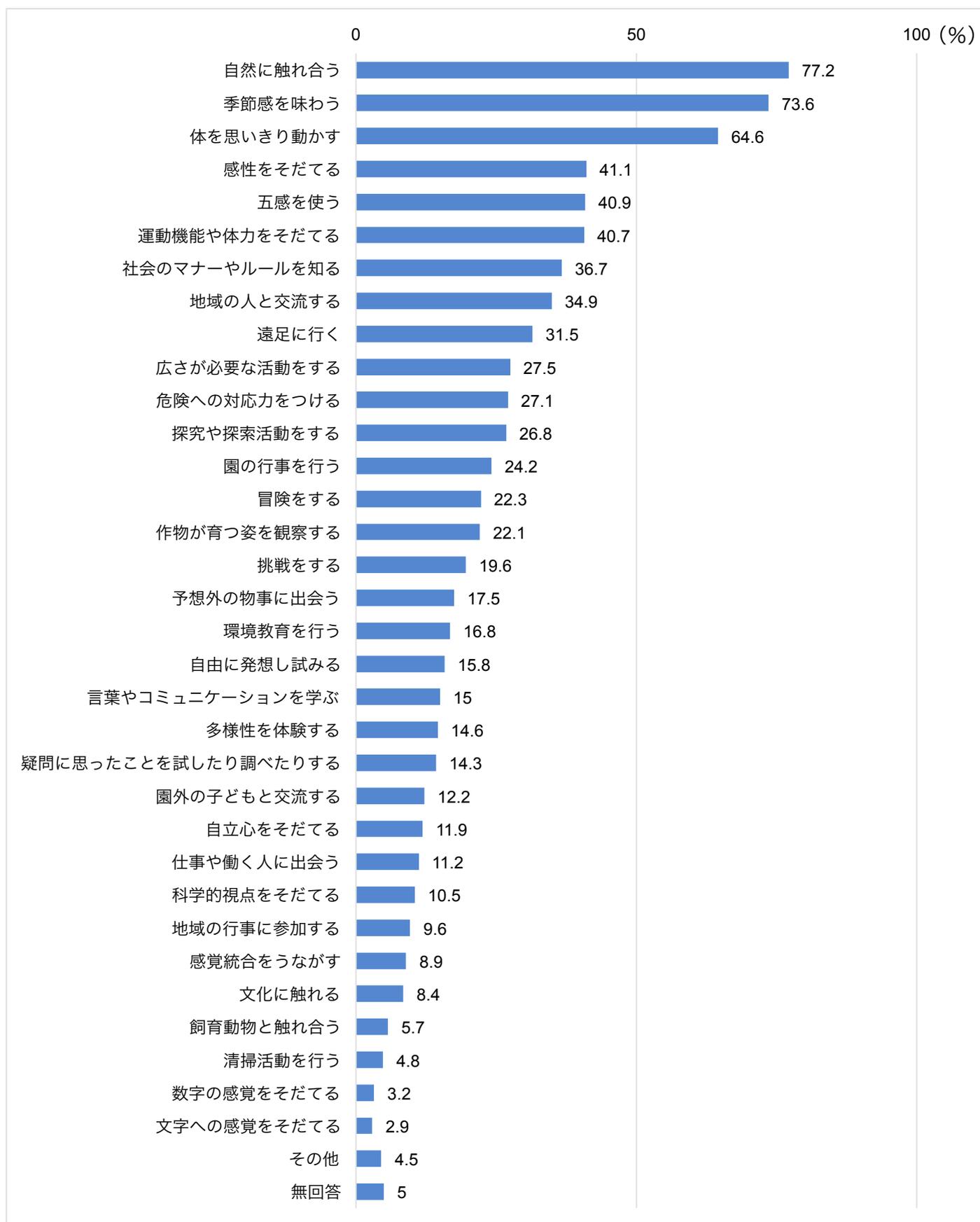
・2か所の公園を利用している園が最も多く、次いで1か所となっている。4か所以上を利用する園はそれほど多くない。

4-3. 最もよく利用している場所



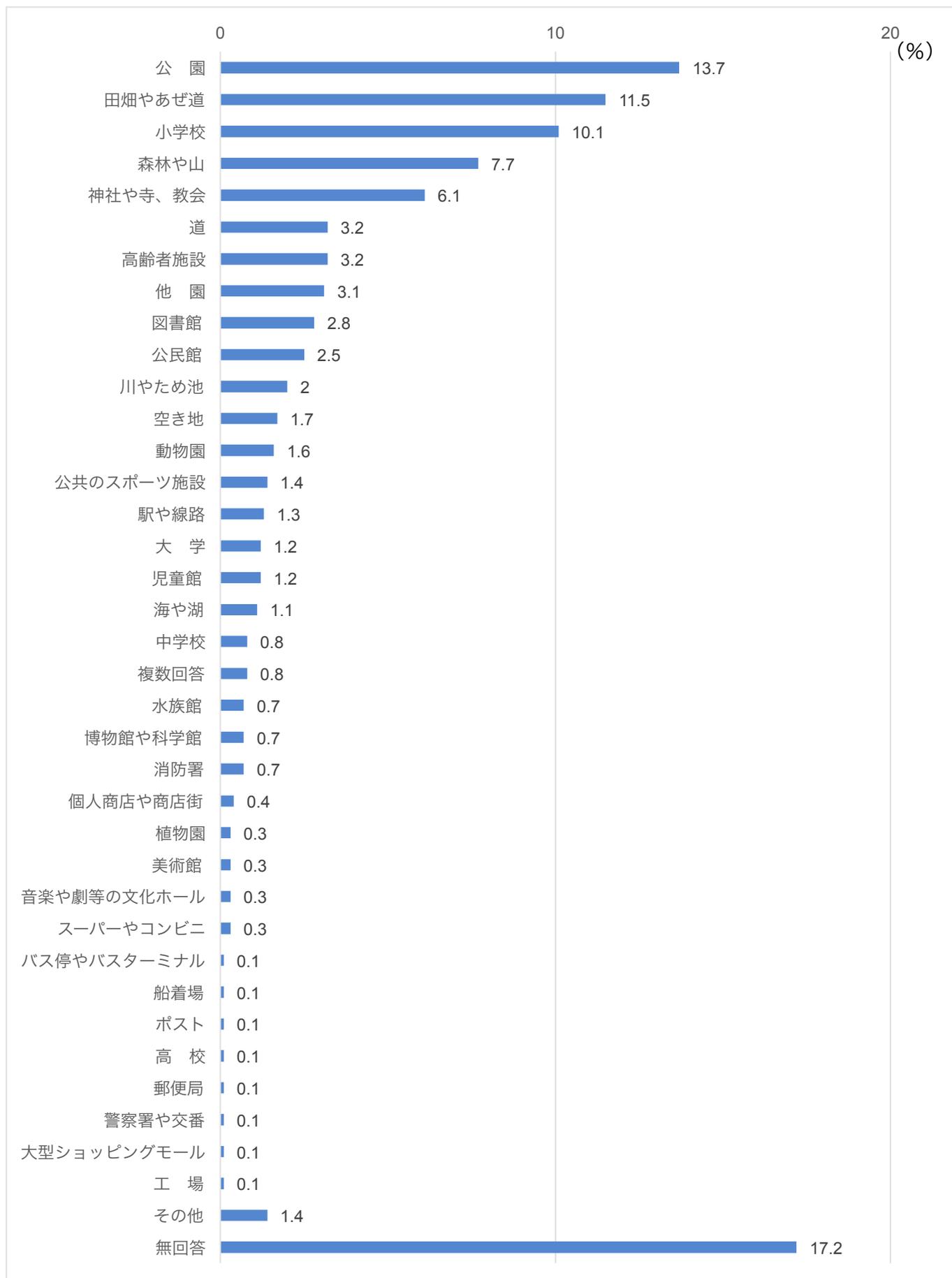
・最もよく利用する場所として、「公園」が最も多い。次いで「田畑やあぜ道」となるが割合は公園と比してかなり低くなっている。回答園の利用率は低い最もよく利用する場所として「植物園」「水族館」「スーパーやコンビニ」といった公共施設の他「特定の人の家」とする回答園もみられる。

4-4. 最もよく利用する場所のねらいや目標(複数回答項目)



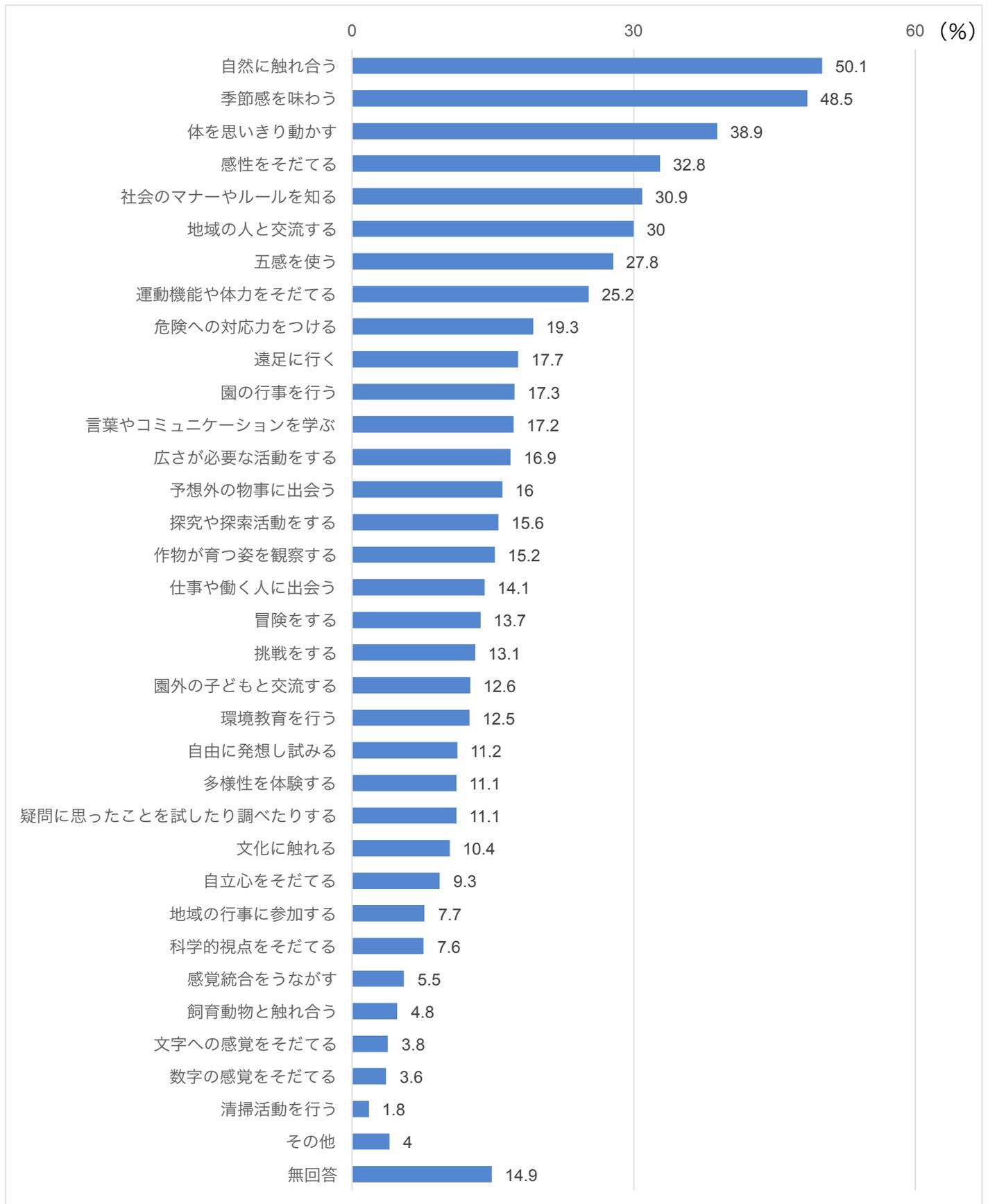
・最もよく利用する場所のねらいや目標として、「自然に触れ合う」が最も高く、次いで「季節感を味わう」「体を思いきり動かす」となっている。また最も低いものは「文字への感覚をそだてる」であり、次に「数字への感覚をそだてる」となっている。

4-5. 2番目に利用している場所



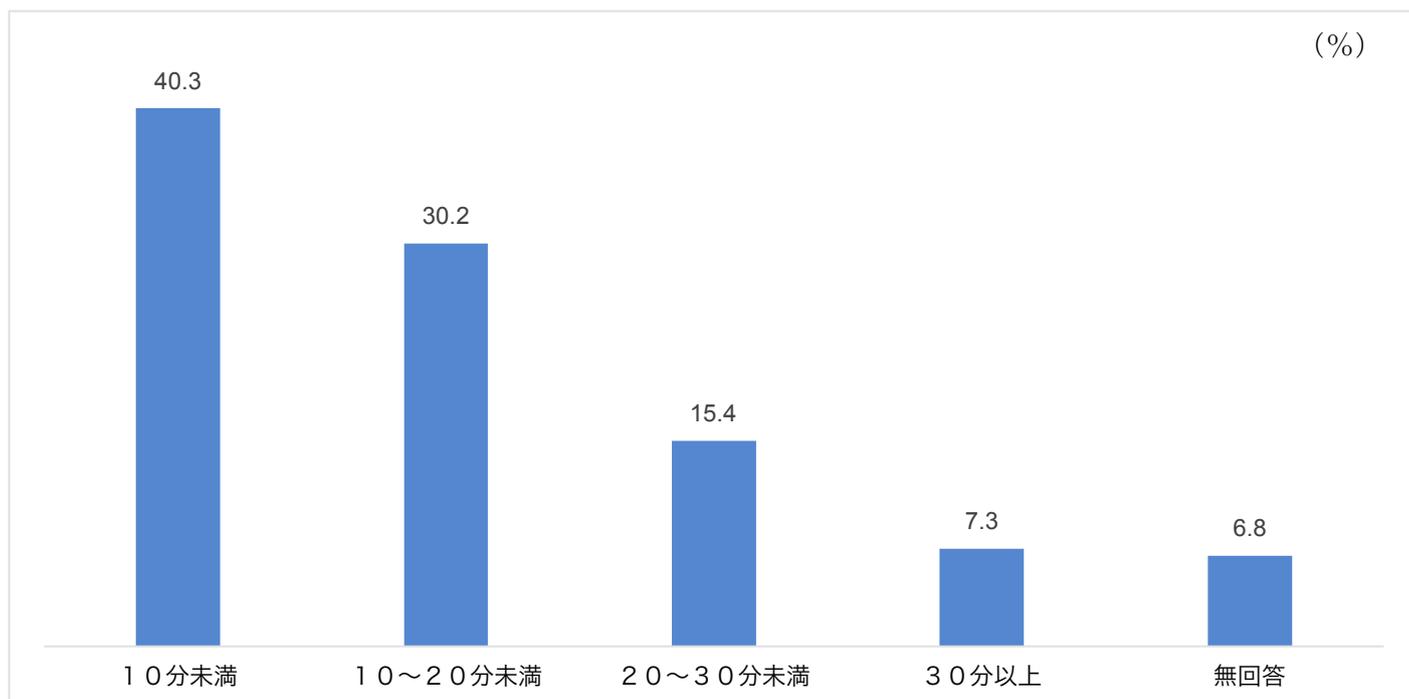
・2番目に利用している場所は、最も利用している場所と同様の結果で「公園」が高い。

4-6. 2番目に利用する場所のねらいや目標(複数回答項目)



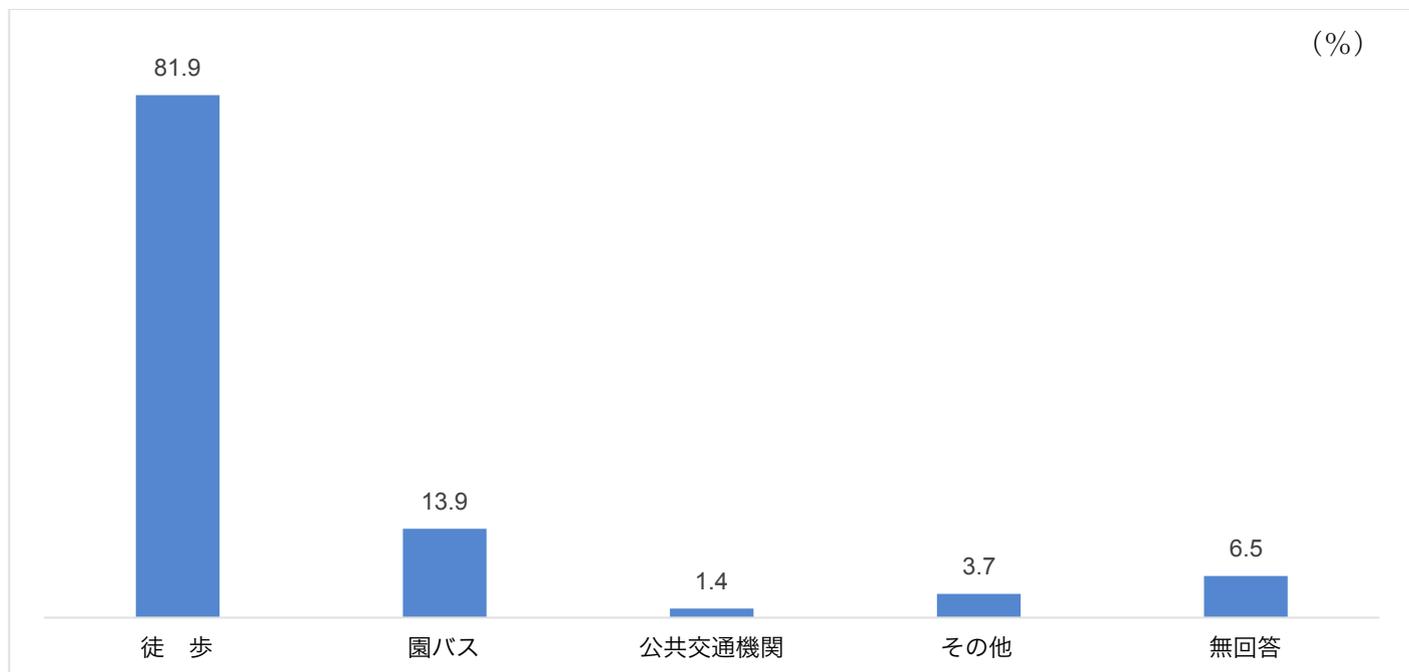
・二番目に利用する場所のねらいと目標については、最も利用する場所のねらいと目標同様に「自然に触れ合う」が最も高く、次に高い割合も最も利用する場所と同様の「季節観を味わう」であった。最も低いものは「清掃活動を行う」であり、次いで「数字への感覚をそだてる」「文字への感覚をそだてる」であった。

4-7. 最もよく利用している場所への所要時間



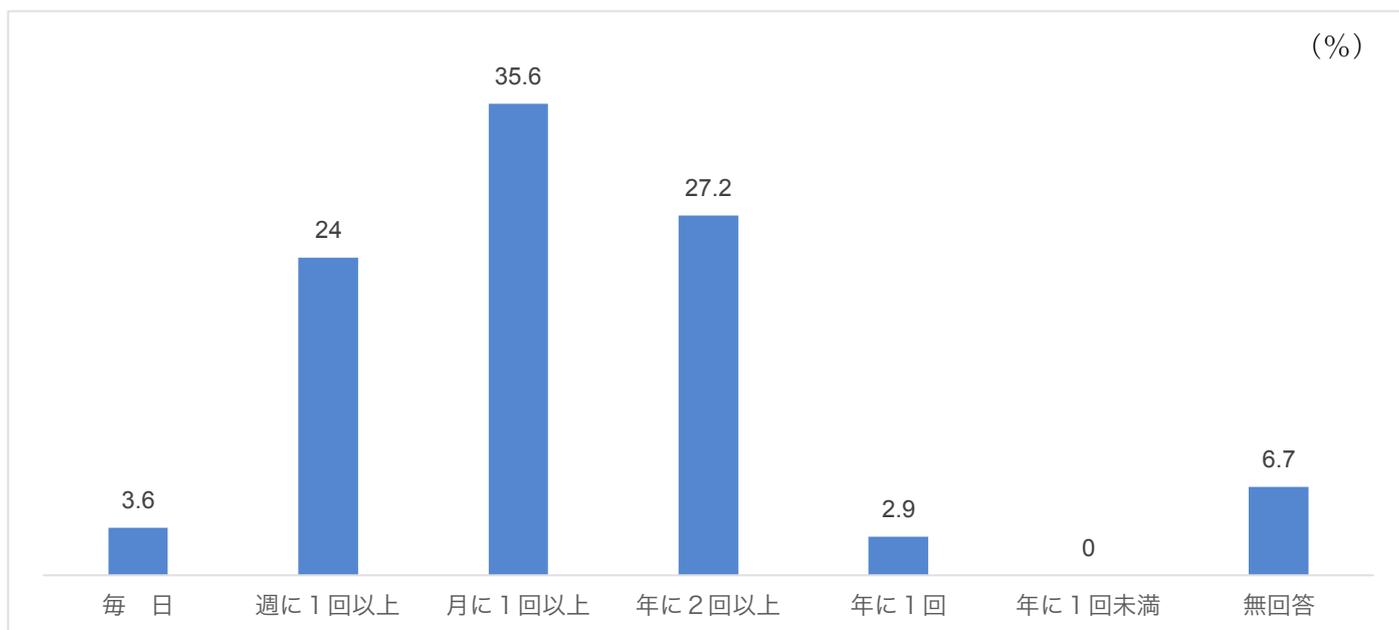
・最もよく利用している場所への所要時間は「10分未満」が最も高く、次いで「10~20分未満」となっている。

4-8. 最もよく利用している場所への移動手段



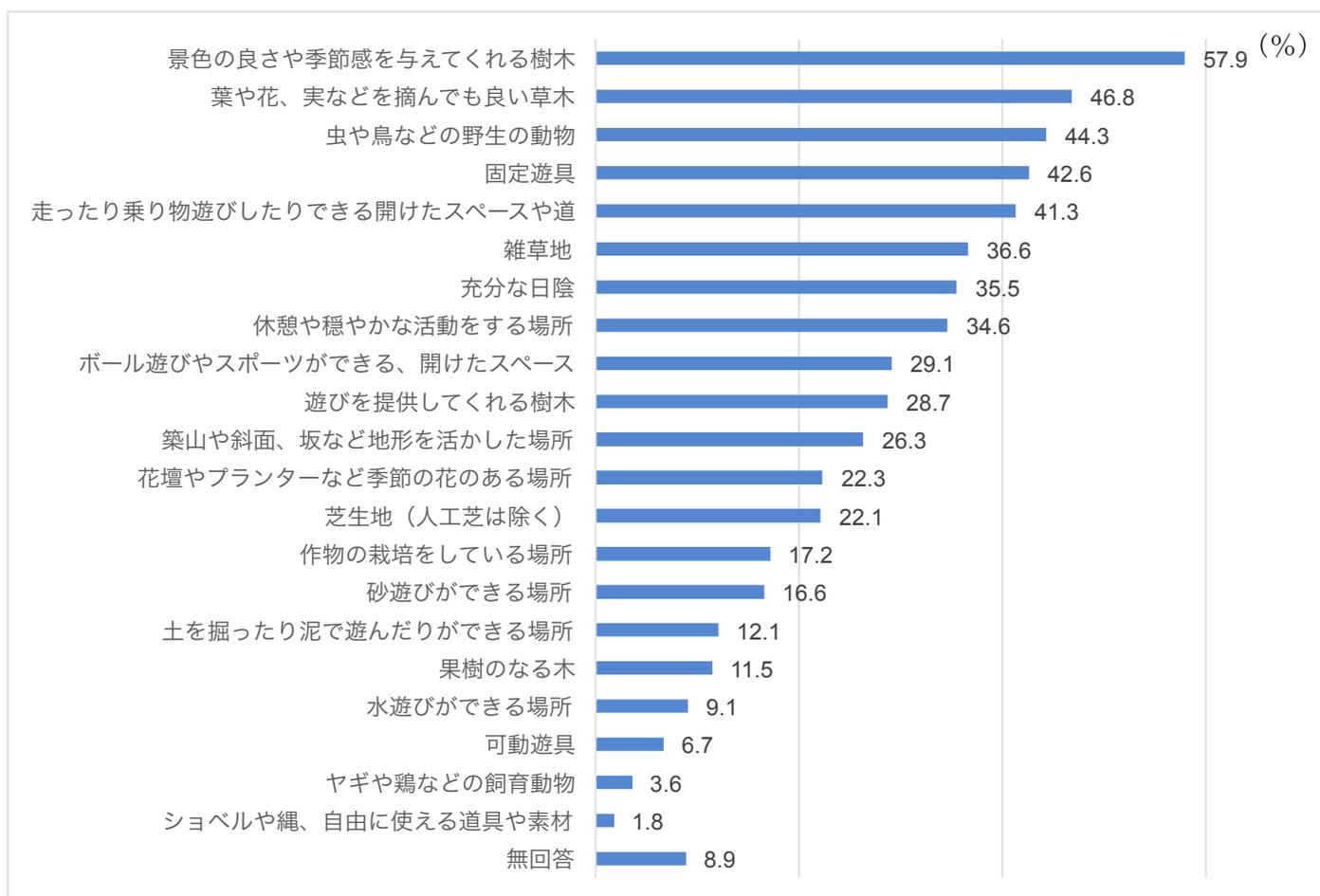
・最もよく利用している場所への移動手段として「徒歩」が最も高く 8 割を超えている。「公共交通機関」は最も低いですが利用園は認められる。

4-9. 最もよく利用している場所へ行く頻度



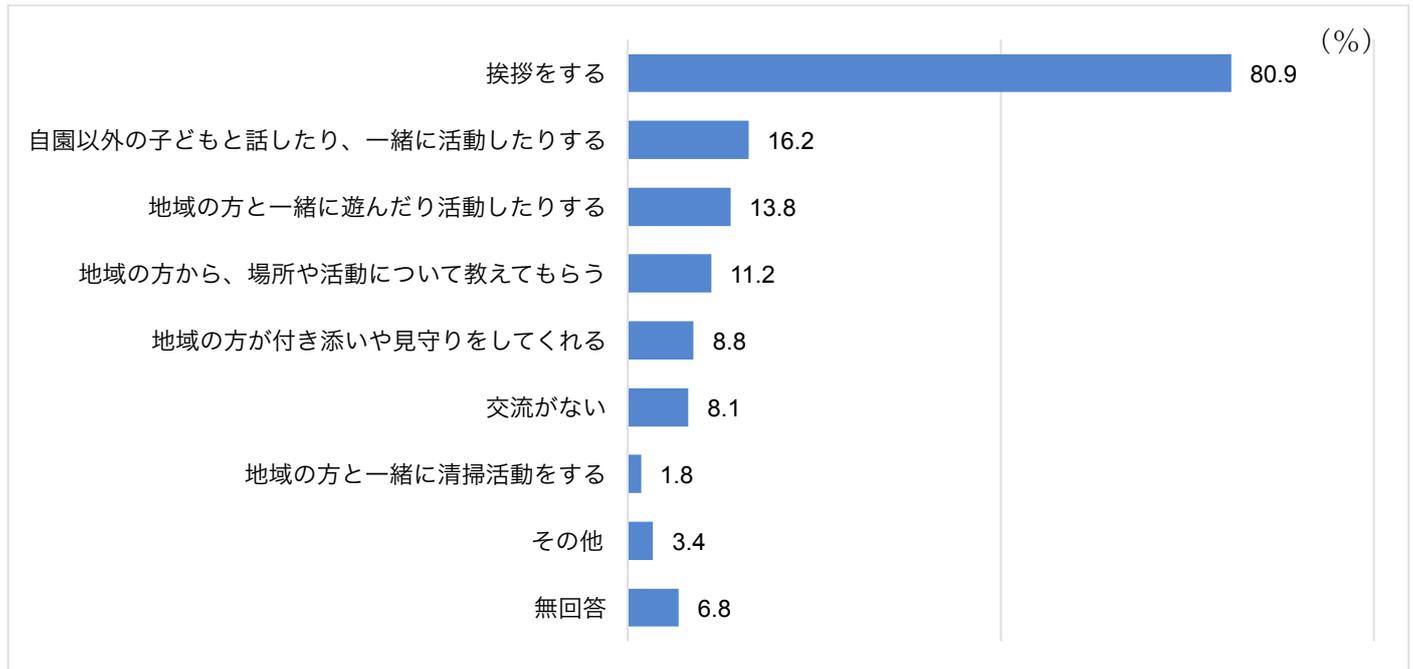
・最もよく利用している場所へ行く頻度は「月1回以上」が最も高い。次いで「年に2回以上」「週に1回以上」となっており、「毎日」「年に1回」という回答は低い。

4-10. 最もよく利用している場所の物理的環境(複数回答項目)



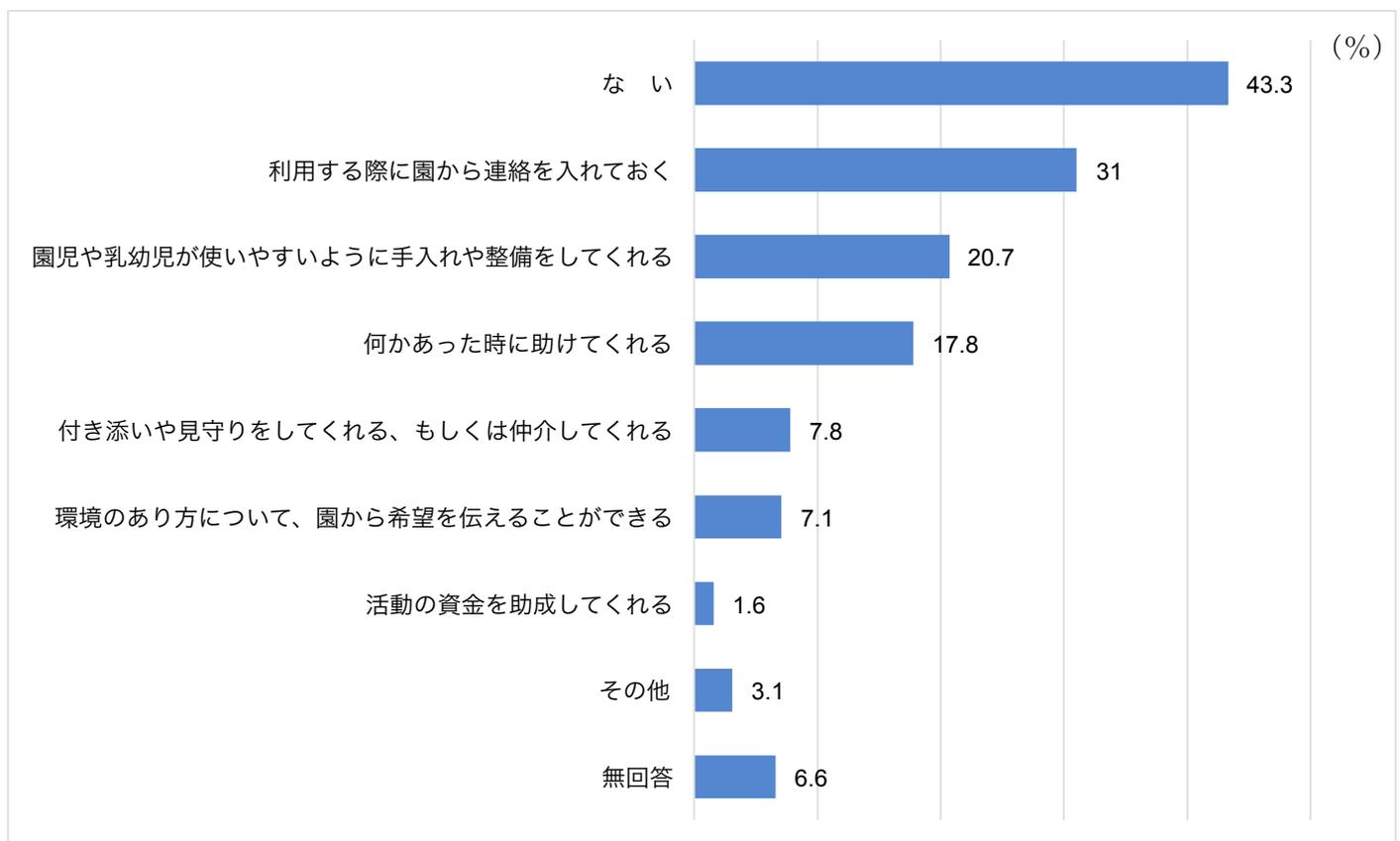
・最もよく利用している場所の物理的環境として、「景色の良さや季節感を与えてくれる樹木」が最も高く次いで「葉の花、実などを摘んでも良い草木」となっており、上位3位まで動植物が挙げられている。次いで「固定遊具」となっている。「園からの持参を除くショベルや縄など自由に使える道具や素材」が最も低い。

4-11. 最も利用している場所における地域の人との交流(複数回答項目)



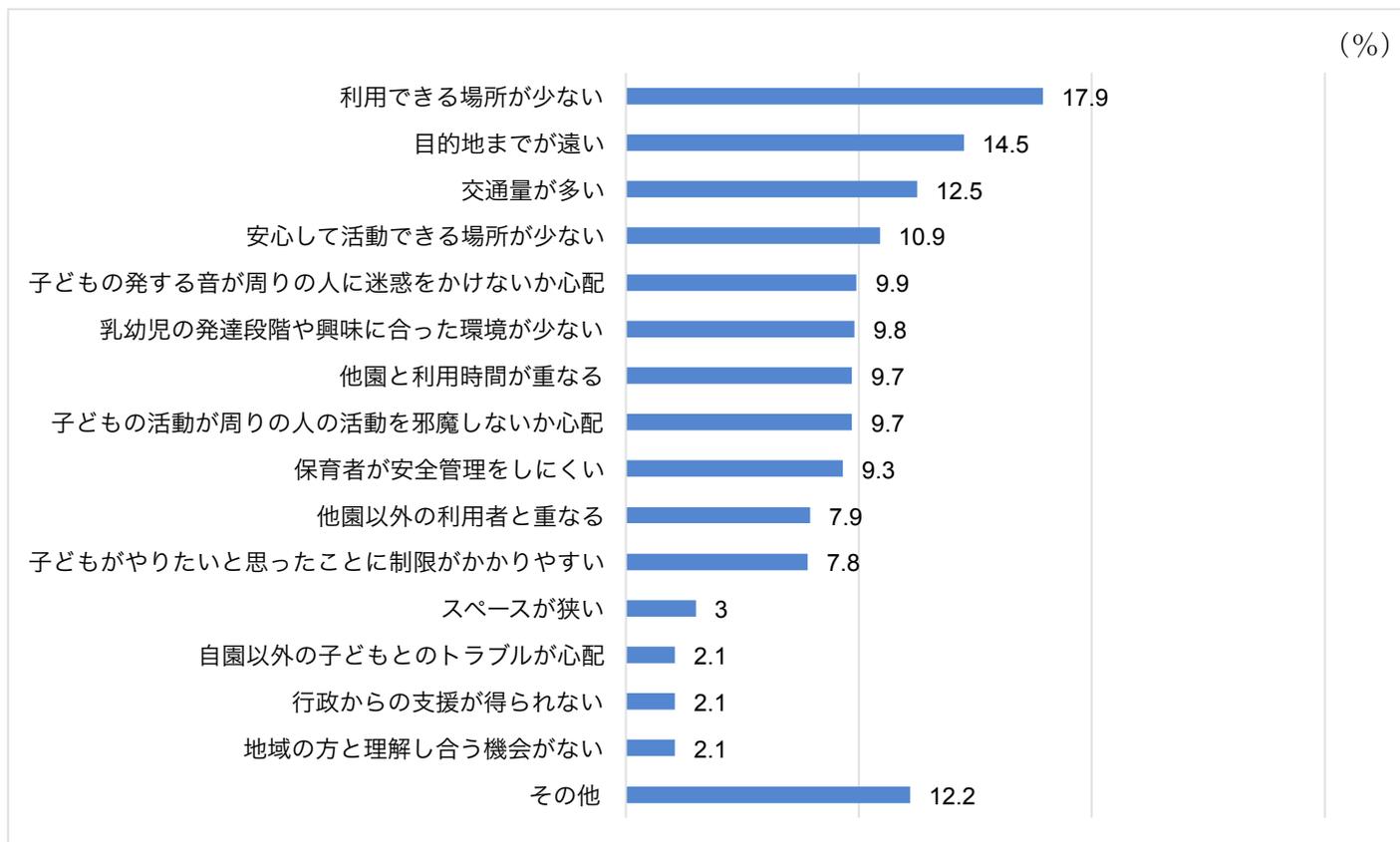
・最も利用している場所における地域の人との交流では「挨拶をする」が最も高い。「地域の方と一緒に清掃活動をする」が最も低く、次いで「交流がない」となっている。

4-12. 最もよく利用している場所に対する行政や管理者の支援(複数回答項目)



・最もよく利用している場所に対する行政や管理者の支援については、「ない」が最も高く、次いで「利用する際に園から連絡を入れておく」となっている。「活動の資金を助成してくれる」が最も低い。

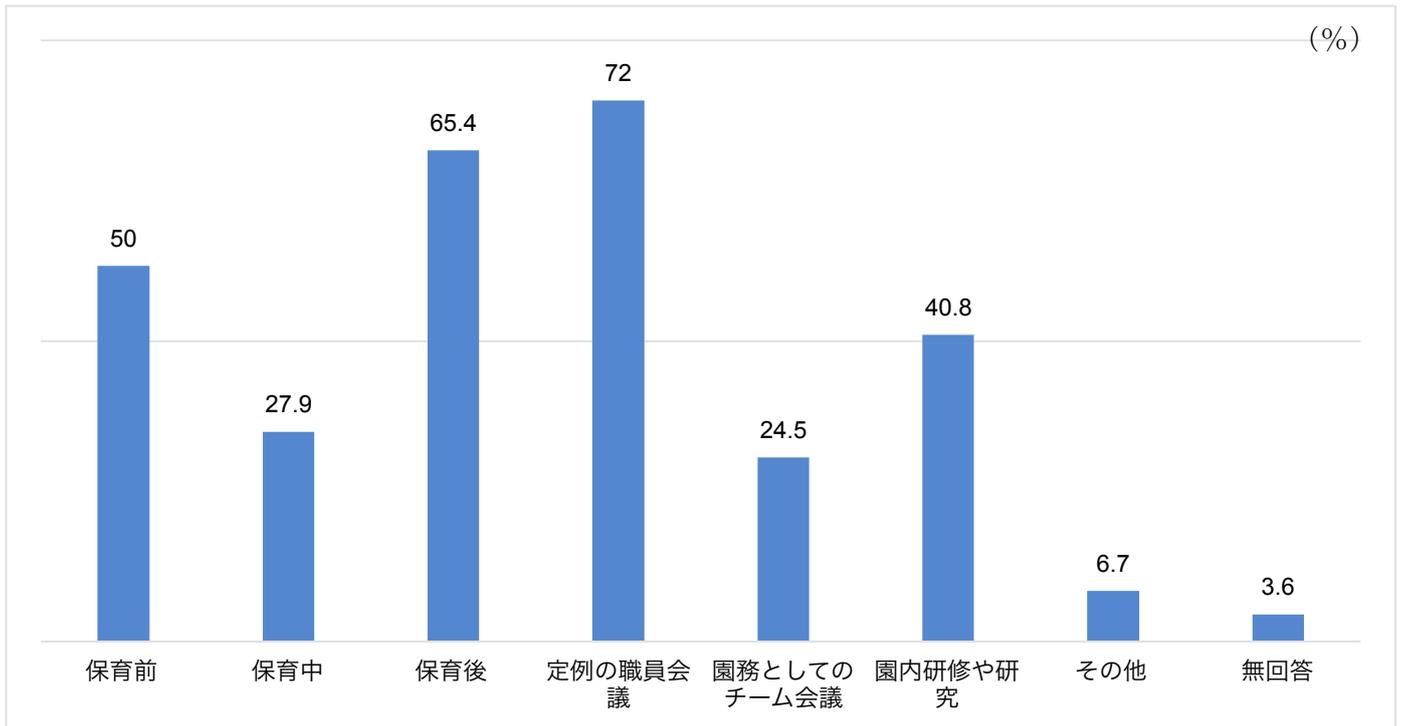
4-13. 地域環境を利用する際の課題(複数回答項目)



・地域環境を利用する際の課題について、「利用できる場所が少ない」が最も高く、次いで「目的地までが遠い」「交通量が多い」「安心して活動できる場所が少ない」となっている。

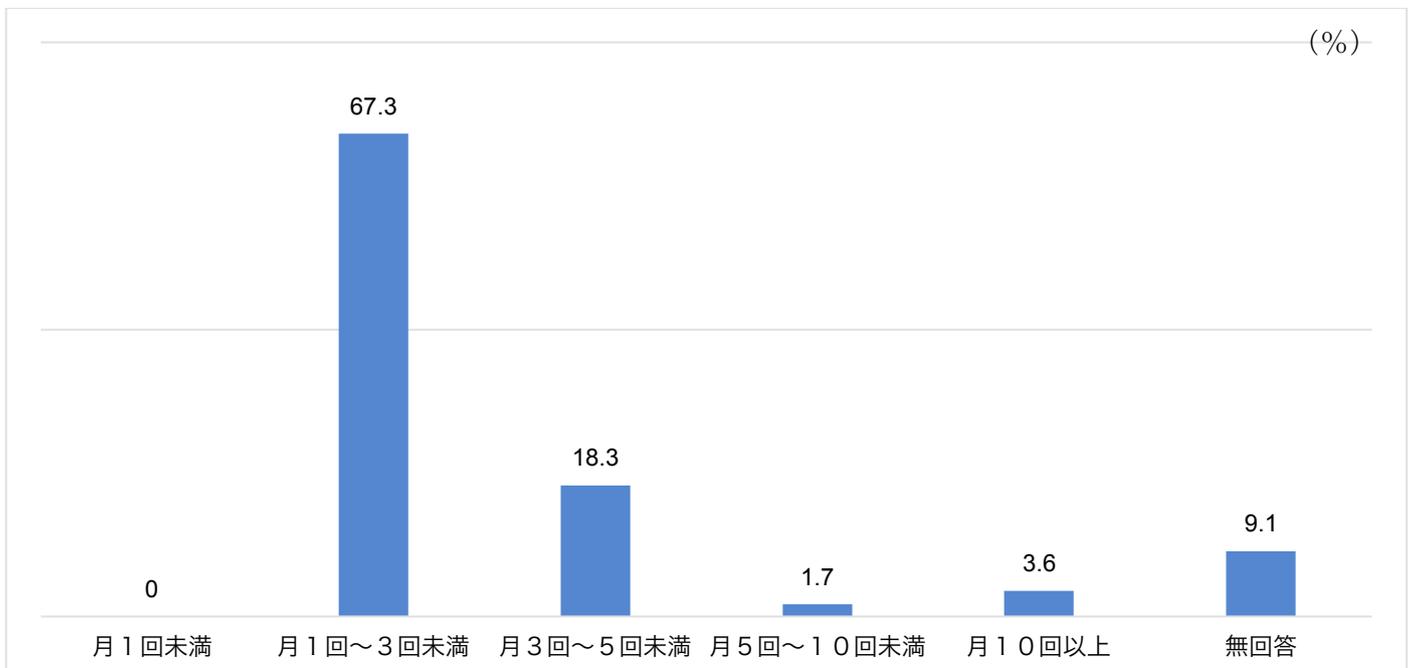
V. 屋外環境に関する園内での情報共有・保護者との共有

5-1. 保育者間で話し合う時（複数回答項目）



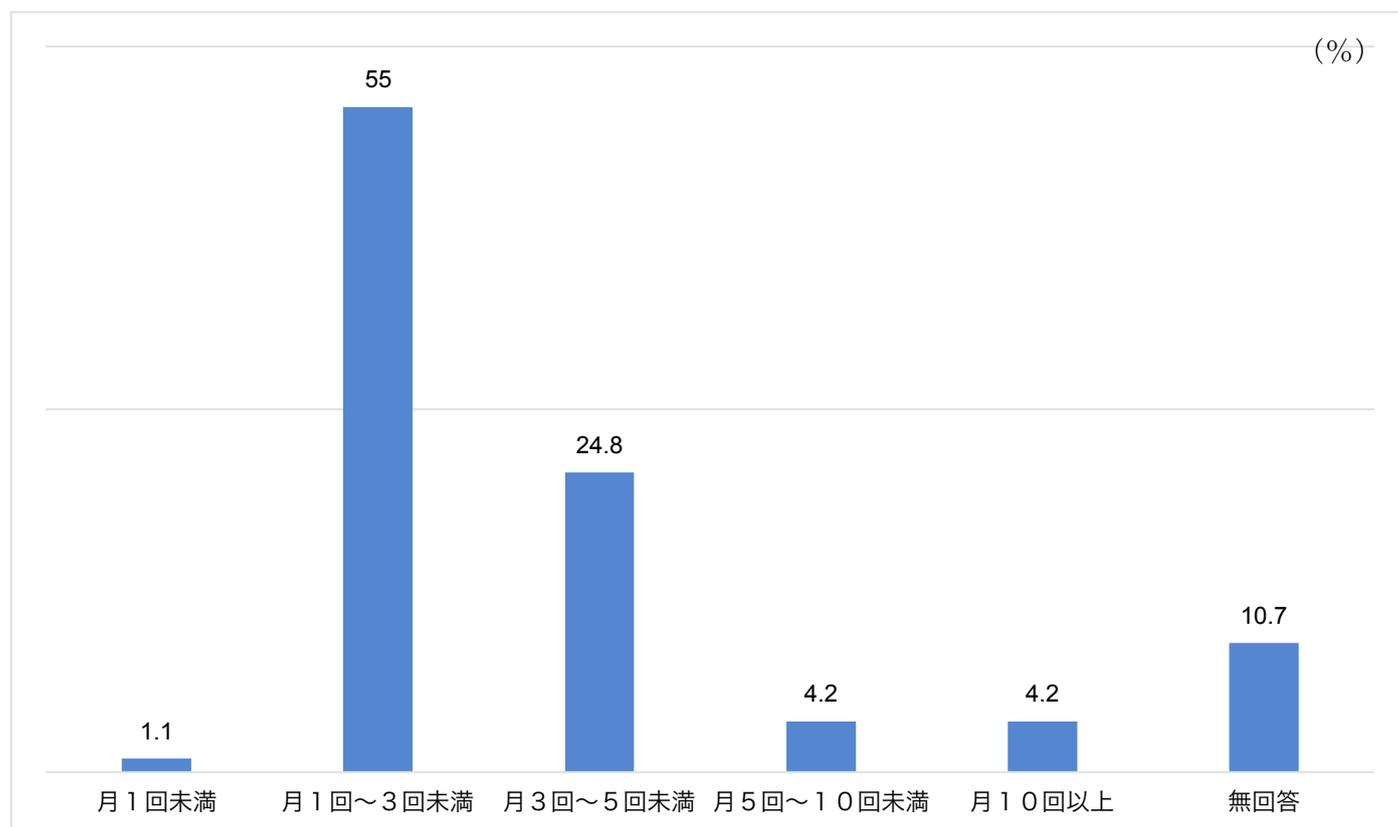
・屋外環境に関する情報共有は「定例の職員会議」で行われる割合が最も高く、次いで「保育後」「保育前」「園内研修や研究」となっている。「園務としてのチーム会議」は選択肢の中で最も低い。

5-2. 定例の職員会議の回数(月) (n=770)



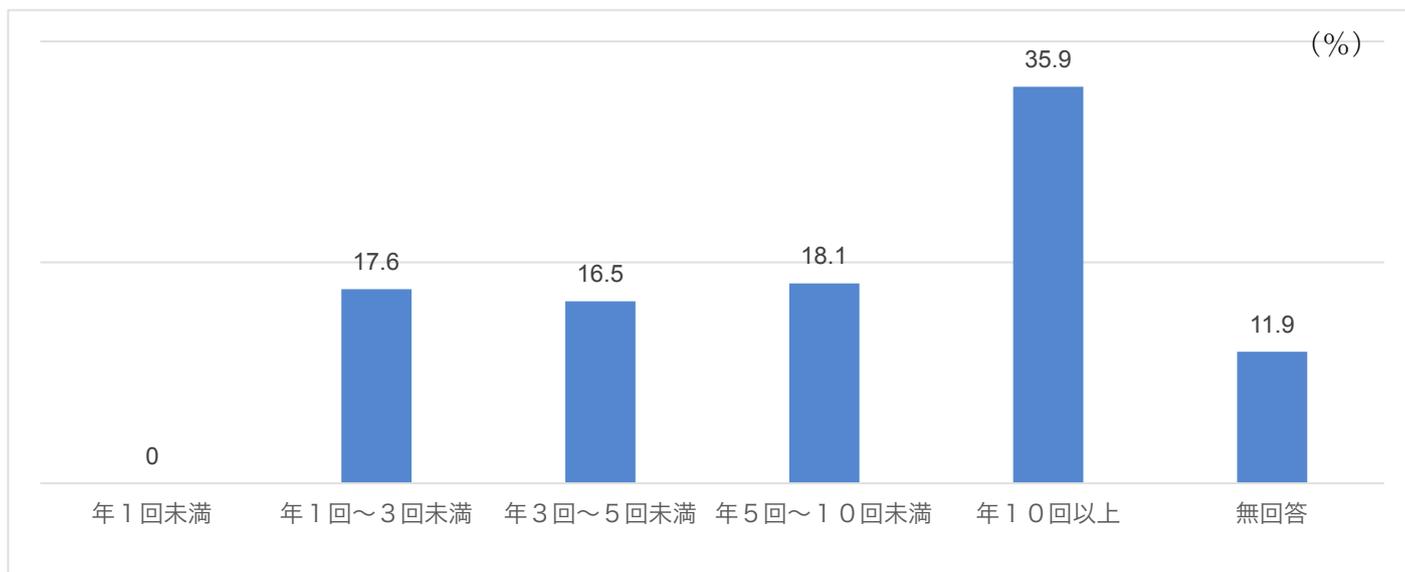
・定例の職員会議は「月1回～3回未満」が最も多く、「月1回未満」は無かった。少数ではあるが、「月10回以上」開催する園もみられる。

5-3. 園務としてのチーム会議の回数(月) (n=262)



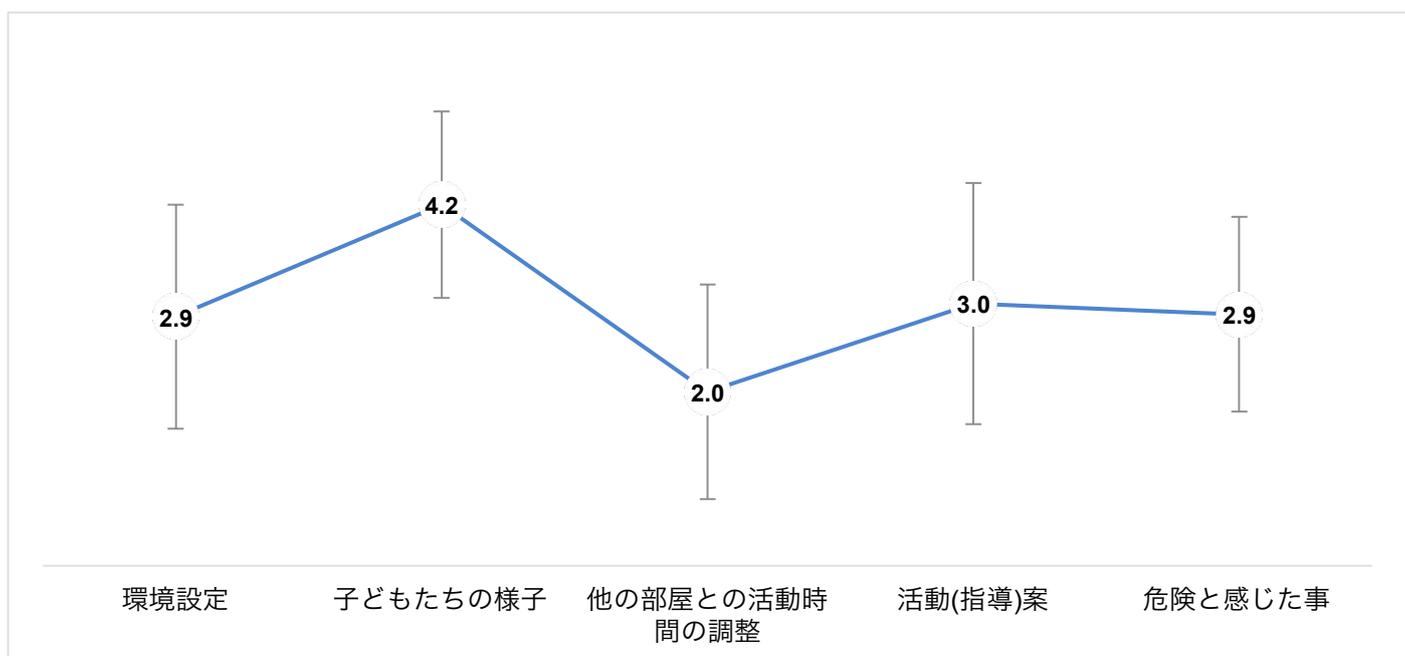
- ・園務としてのチーム会議を開催する園での回数については、「月1回~3回未満」が最も多い。

5-4. 園内研修や研究の回数(年) (n=437)



・園内研修や研究の回数は、年10回以上が最も多い。年1回未満の園はない。

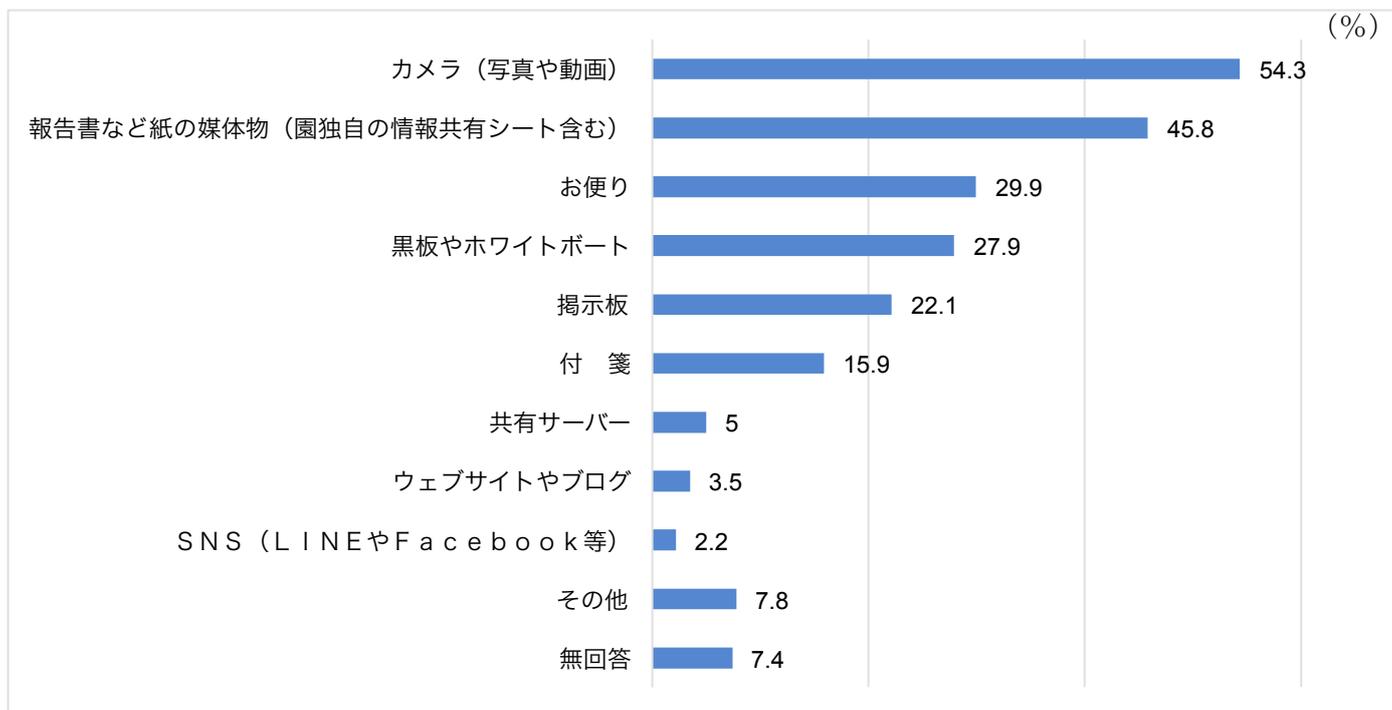
5-5. 屋外保育について保育者間で話し合う事柄(順位付けによる回答) (n=986)



	環境設定	子どもたちの様子	他の部屋との活動時間の調整	活動(指導)案	危険と感じた事
平均値	2.9	4.2	2.0	3.0	2.9
標準偏差	1.3	1.1	1.2	1.4	1.1

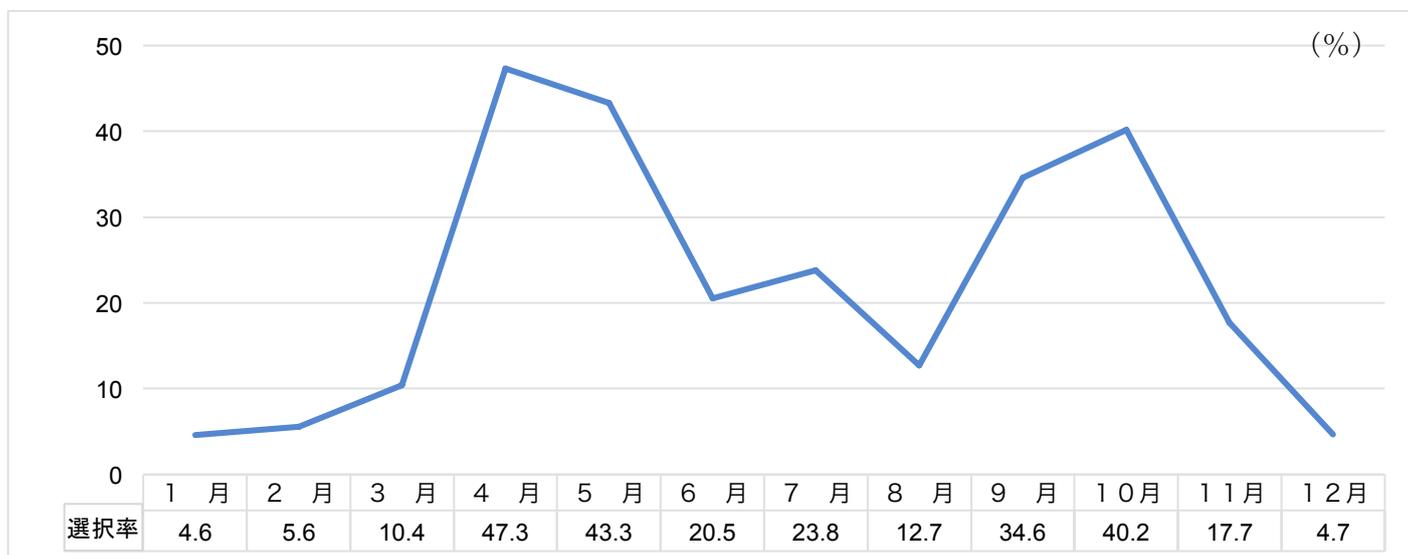
・分析にあたっては、回答者の順位付けを得点化し(1位=5点、2位=4点、3位=3点、4位=2点、5位=1点)、それぞれの選択項目の合計得点を算出した後平均値と標準偏差を確認した。結果、屋外保育について保育者間で話し合う内容について、「子どもたちの様子」を1位に挙げる園が最も多く、次いで「環境設定」と「危険と感じた事」が同位となっている。5位として挙げられることが最も多かった内容は「他の部屋との活動時間の調整」であった。また、順位付けにおいて園によって最も差が大きいのは「活動(指導)案」についてであり、「子どもたちの様子」と「危険と感じた事」に関しては園による差は小さい。

5-6. 保育者間の情報共有で役立っている道具（複数回答項目）



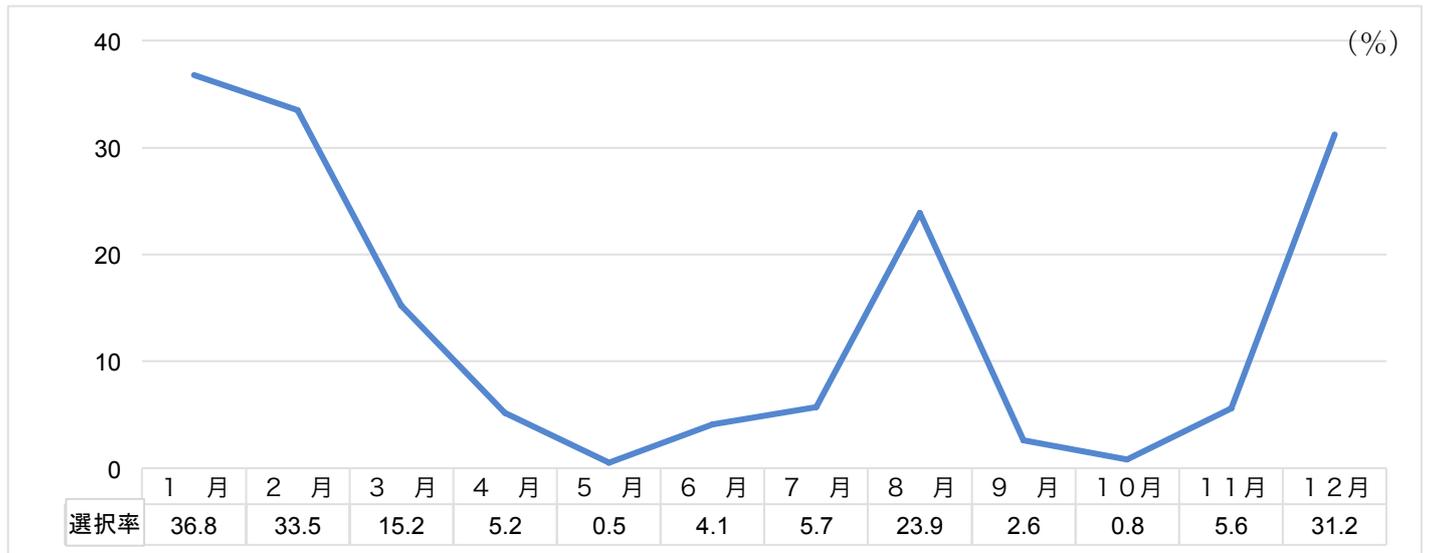
・保育者間の情報共有で役立っている道具としては、「カメラ(写真や動画)」が最も多く、ついで「紙の媒体物」となっている。「SNS」や「ウェブサイトやブログ」など、インターネット利用は少ない。

5-7. 情報共有が最も多い月 (n=702 : 複数回答項目)



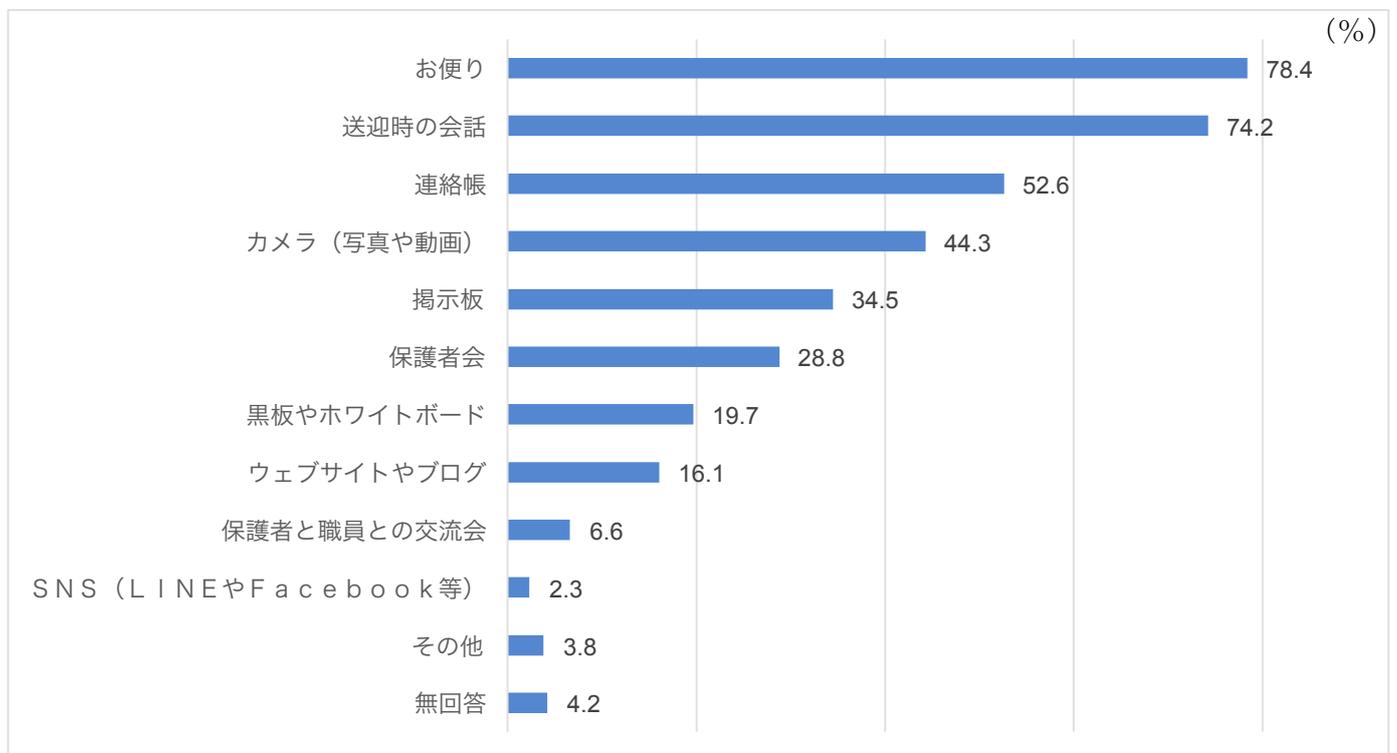
・情報共有が最も多い月は、4月であり、次いで5月になっている。また、10月も多い。最も少ないのは1月であり、12月も少ない。

5-8. 情報共有が最も少ない月 (n=612: 複数回答項目)



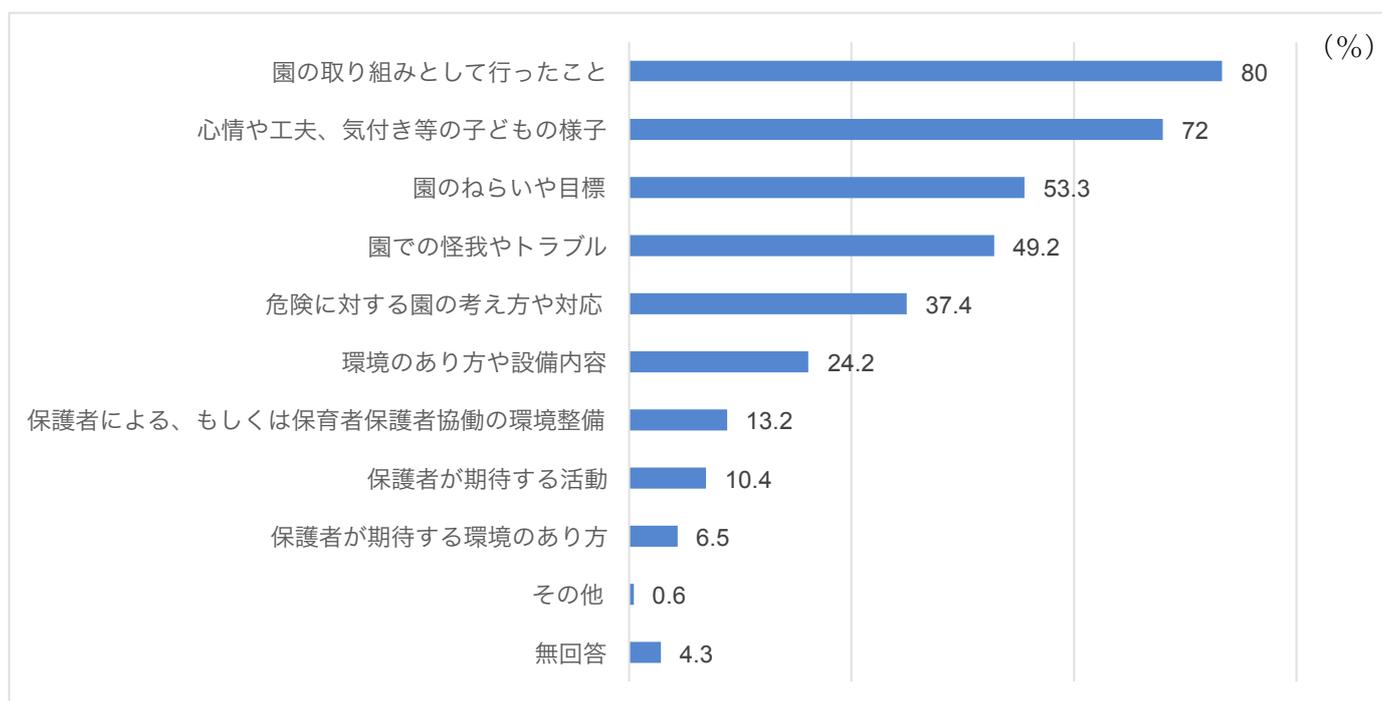
・情報共有が最も少ない月として最も多くあげられたのは1月であり、2月と12月も多い。また、最も少ない時期として最もあげられなかったのは5月であり、10月と9月も少ない。

5-9. 保護者との情報共有で役立っている道具 (複数回答項目)



・保護者との情報共有で役立っている道具は、「お便り」が最も多く次いで「送迎時の会話」になっている。また最も少ないのは「SNS」であり、次いで「保護者と職員の交流会」となっている。

5-10. 保護者との情報共有の内容（複数回答項目）



・保護者との情報共有の内容として、最も選択されたのは「園の取組みとして行なったこと」であり、次いで「心情や工夫、気づき等の子どもの様子」であった。「園のねらいや目標」と「園での怪我やトラブル」は半数程度、「危険に対する考え方や対応」は4割弱、園庭環境については2割弱である。最も選択が少なかったのは「保護者が期待する環境のあり方」次いで「保護者による、もしくは保育者保護者協働の環境整備」であった。